

2010年5月25日

成長軌道への回帰と1 2 Visionの実現に向けて

社長 松本 正義



2009年度 連結業績

FY2009 Result & FY2010 Forecast

前年対比では、上期を中心に自動車・エレクトロニクス市場が縮小したことに加え、銅価下落もあり売上高は減少。一方、営業利益は、構造改善効果などにより増加。中間公表比では、自動車を中心に、需要回復・コスト低減が進み、増収増益。

(単位：億円)	2008年度 実績	2009年度 中間公表	2009年度 3/26公表修正	2009年度 4/30公表修正	2009年度 実績	前年比 増減率
売上高	21,220	18,000	18,200	18,300	18,364	▲13%
営業利益	235	330	450	510	517	+120%
経常利益	378	400	550	680	682	+81%
当期純利益	172	130	200	280	287	+67%
設備投資額	1,316	820	—	—	733	▲44%
減価償却費	1,082	1,000	—	—	1,038	▲4%
研究開発費	730	750	—	—	723	▲1%
ROA ※	1.6%	2.3%	—	—	3.6%	+2.0%
ROE	1.9%	1.5%	—	—	3.3%	+1.4%

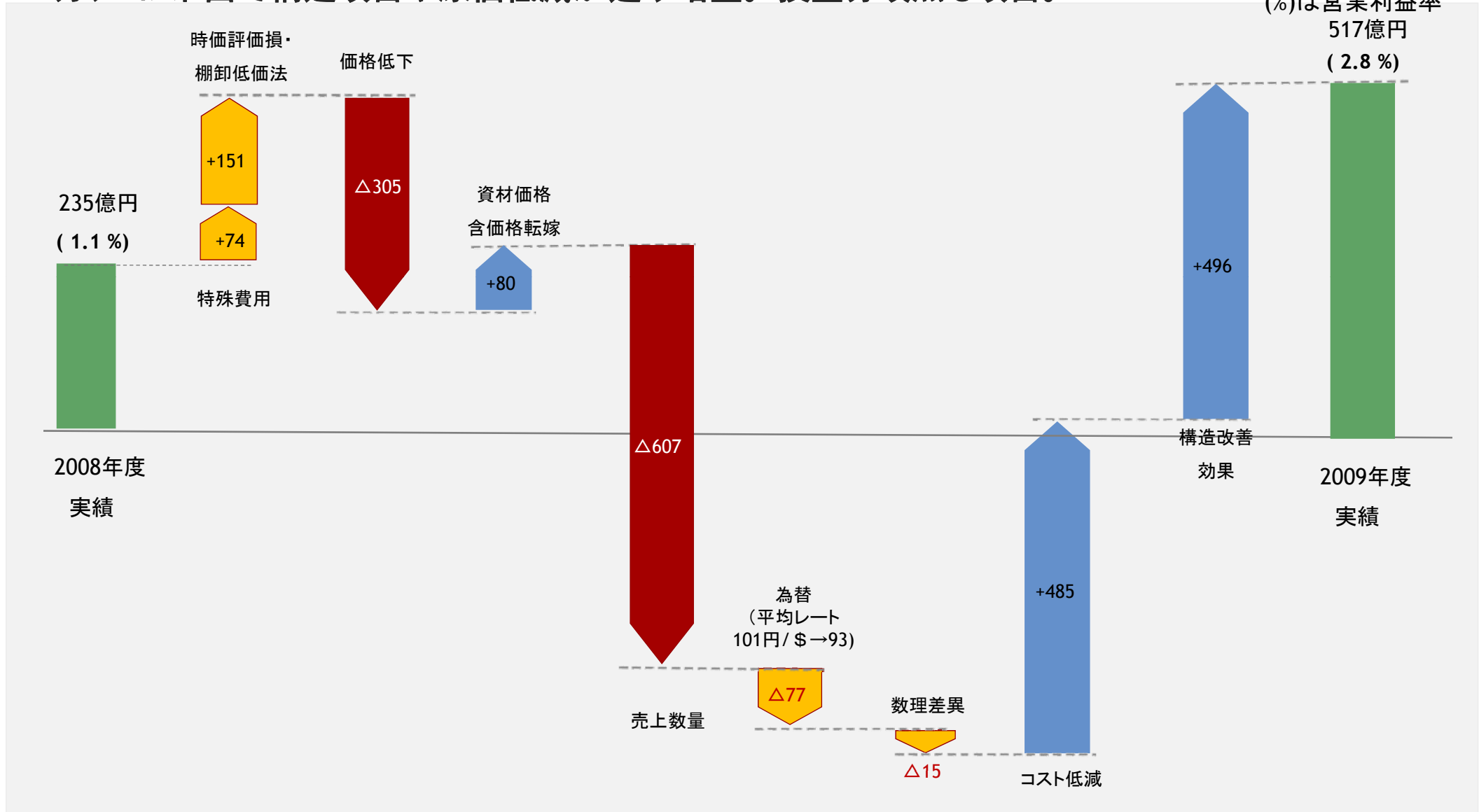
※ROA=営業利益/期中平均使用資本



営業利益の増減益要因 ~2008年度/2009年度

FY2009 Result & FY2010 Forecast

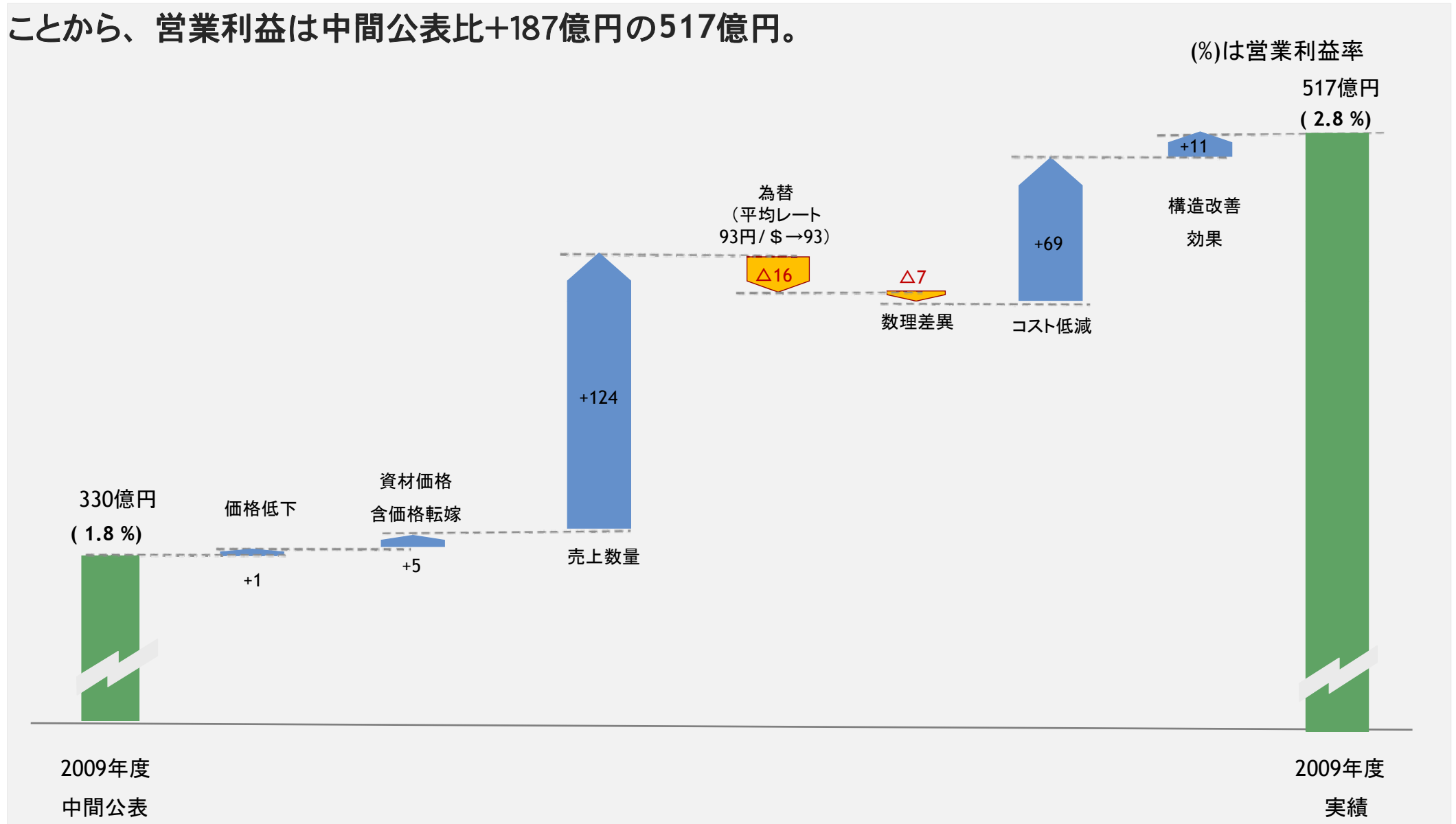
売上数量は、上期の落ち込みが大きく、年間を通じては大きなマイナス。
一方、コスト面で構造改善や原価低減が進み増益。損益分岐点も改善。



営業利益の増減益要因 2009年度 中間公表対比

FY2009 Result & FY2010 Forecast

自動車市場の回復が予想を上回り、売上数量が増加したほか、コスト低減や構造改善を加速したことから、営業利益は中間公表比+187億円の517億円。





2009年度 構造改善策効果まとめ

FY2009 Result & FY2010 Forecast

構造改善効果は、経費削減や海外生産シフトなど生産最適化の加速により、年初公表、中間公表時の予想を上回る496億円。(年初公表:474億円、中間公表時:485億円)。

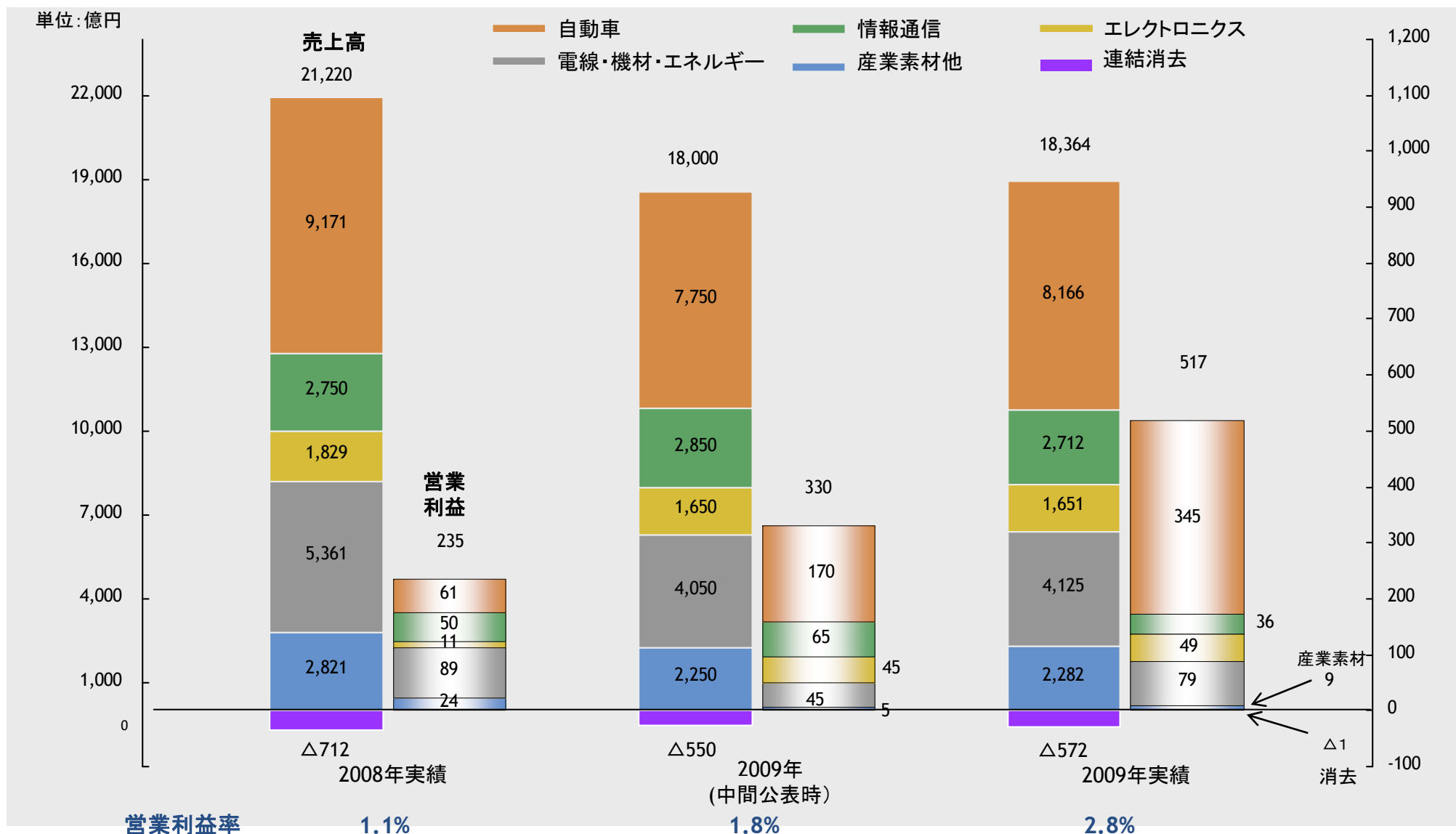
	上期	下期		年間	
	実績	中間公表時見通し	実績	中間公表時見通し	実績
人員削減 人件費減	134	142	132	276	266
経費削減 生産拠点再編 減損効果他	98	111	132	209	230
合計	232	253	264	485	496



2009年度 セグメント別連結業績

FY2009 Result & FY2010 Forecast

前年対比では、構造改善対策やコスト削減が進み、自動車・エレクトロニクスを中心に増益。
 中間公表対比では、自動車で需要回復・コスト改善が進み増益。一方、情報通信は未達。





2010年度 連結業績予想

FY2009 Result & FY2010 Forecast

2010年度は緩やかな需要回復が継続し、売上2兆円、営業利益1000億円と予想。

業績予想の前提 為替 : 90円/\$, 125円/€

銅 : 銅建値 65万円/t , LME 6500\$/t

(単位：億円)	2009年度 実績	2010年度 予想	前年比 増減率
売上高	18,364	20,000	+9%
営業利益	517	1,000	+93%
経常利益	682	1,200	+76%
当期純利益	287	600	+109%
設備投資額	733	1,100	+50%
減価償却費	1,038	1,000	▲4%
研究開発費	723	750	+4%
ROA ※	3.6%	7.1%	+3.5%
ROE	3.3%	6.5%	+3.2%

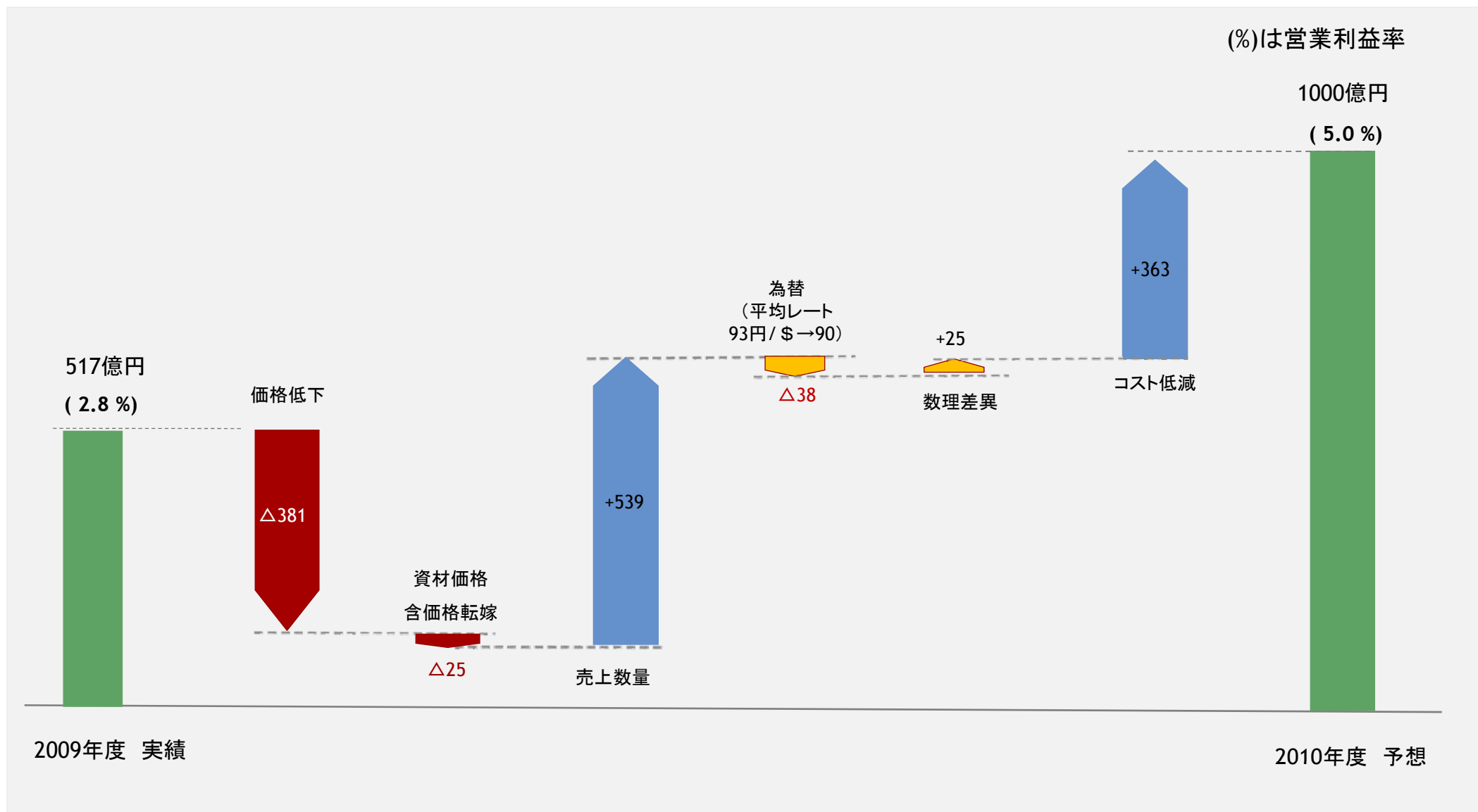
※ROA=営業利益/期中平均使用資本



営業利益の増減益要因 ～2009年度/2010年度

FY2009 Result & FY2010 Forecast

自動車・エレクトロニクス市場を中心に需要が回復し、コスト低減も進むことから、
営業利益1000億円、営業利益率5%を予想。



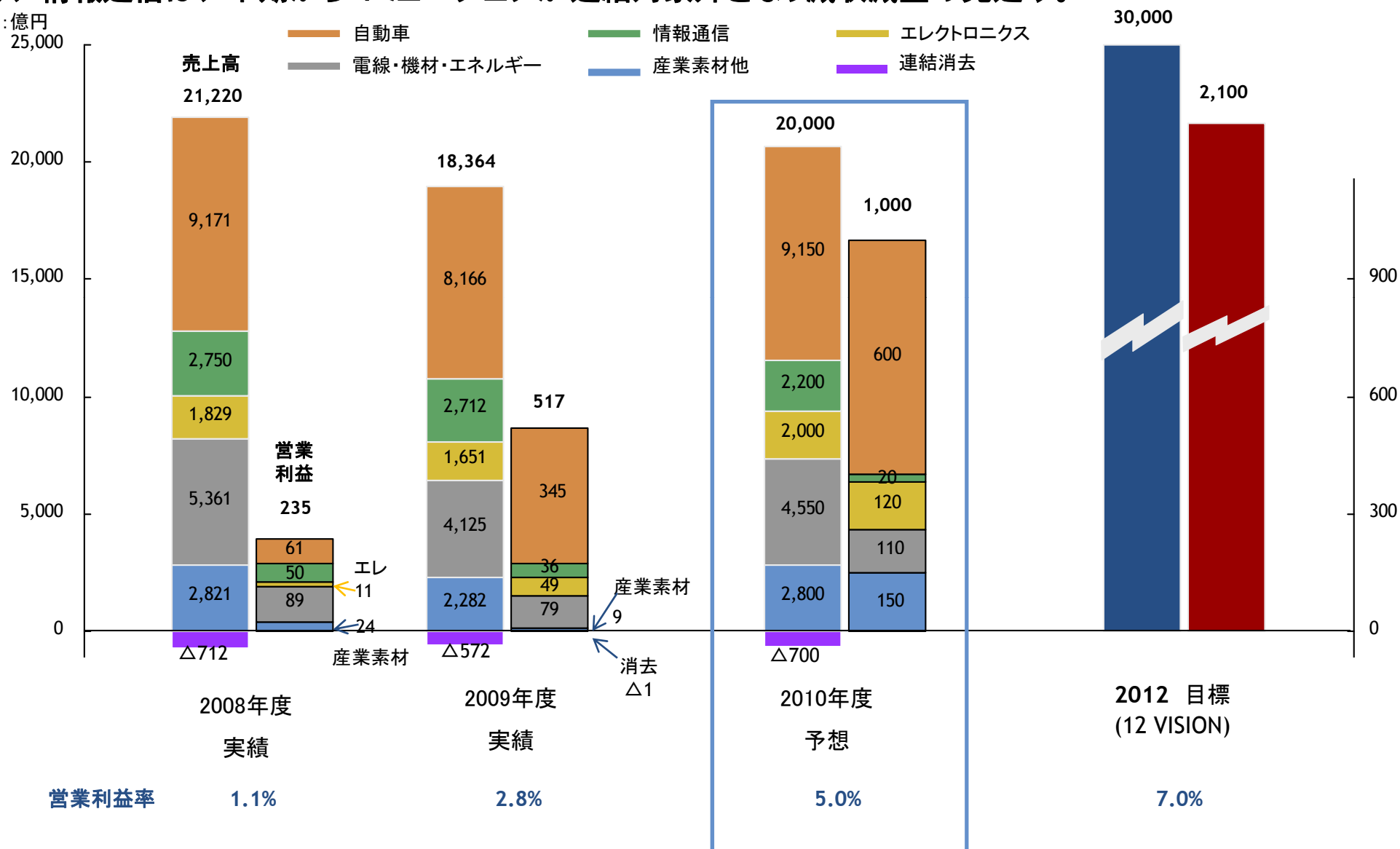


2010年度 セグメント別業績予想の概要

FY2009 Result & FY2010 Forecast

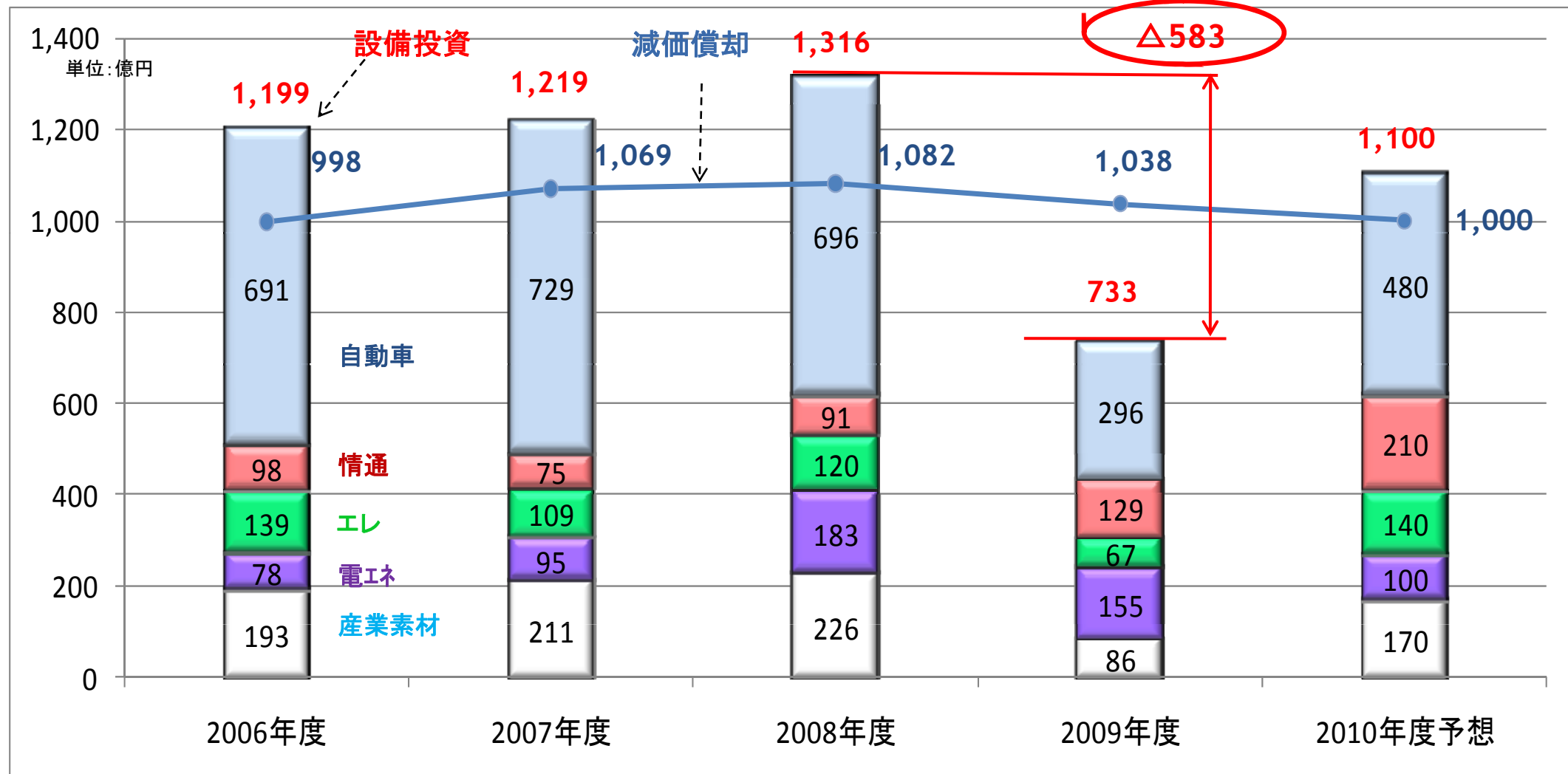
自動車・エレクトロニクス市場を中心に緩やかな需要増加が継続すると予想。
一方、情報通信は、下期からコミュニティアが連結対象外となり減収減益の見込み。

単位: 億円



2010年度 設備投資と減価償却費見通し

09年度の設備投資は前年比△583億円減少(△44%)。減価償却費も△44億円(△4%)減少。
 10年度設備投資は、増産対応などで1,100億円と増加、一方、償却負担は1,000億円と減少。

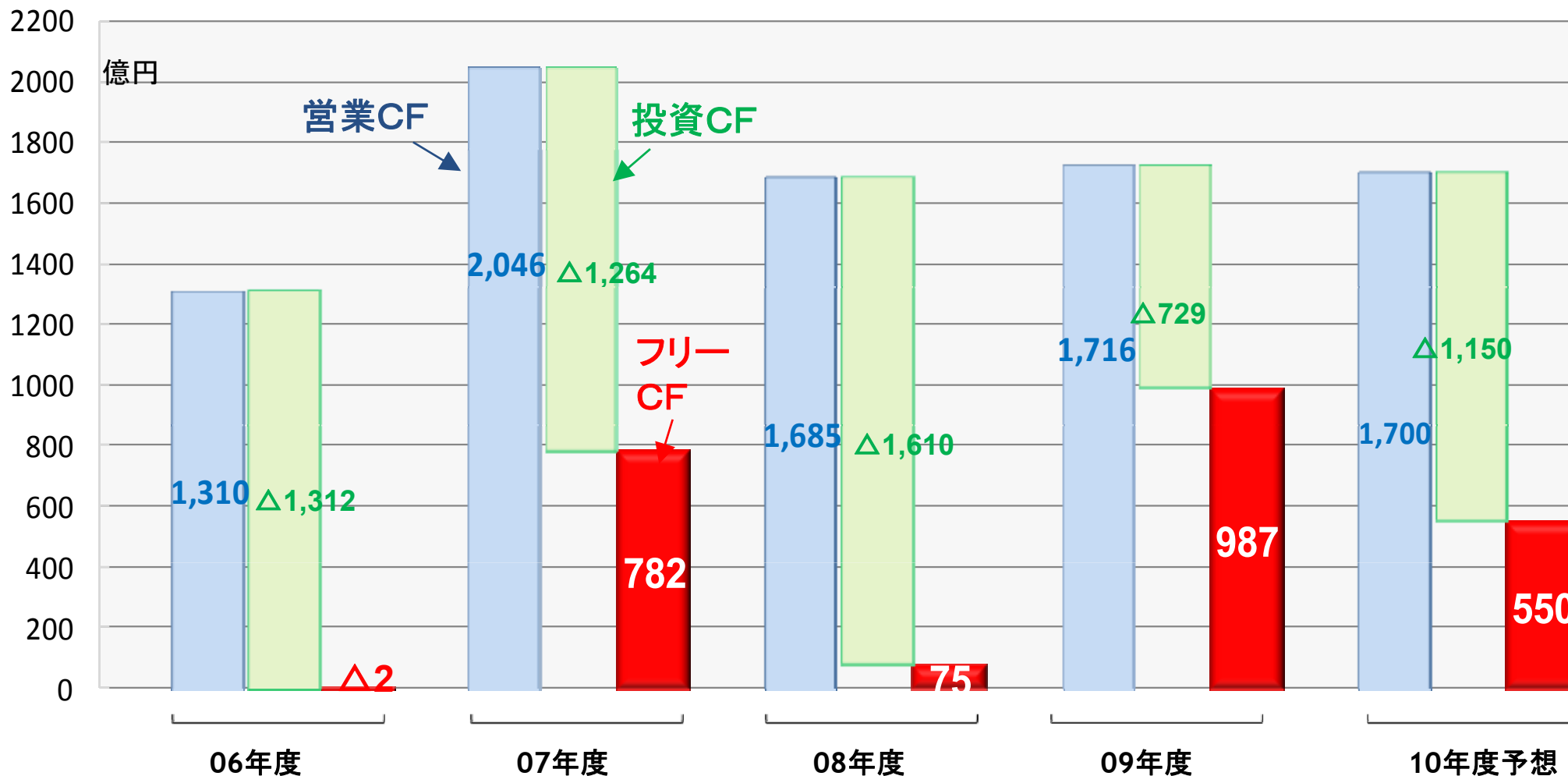




キャッシュフローと財務体質強化について

FY2009 Result & FY2010 Forecast

09年度のFCFは+987億円。10/3末の有利子負債残高は3,556億円、自己資本比率46.6%。
10年度も、FCFはプラス予想。12Visionの自己資本比率50%に向け財務体質強化を進める。

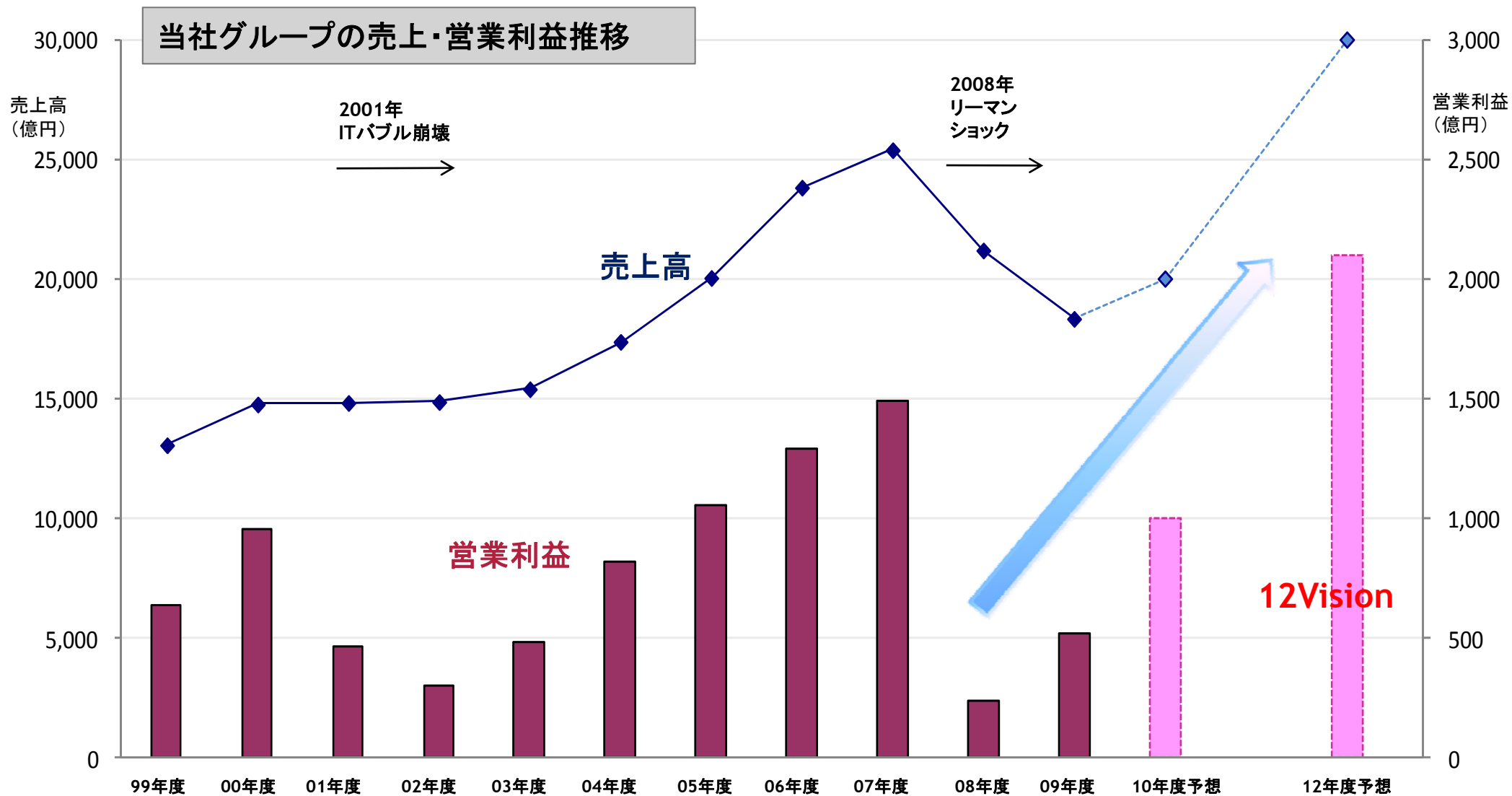


有利子負債残高	4,564億円	4,155億円	4,055億円	3,556億円	2,950億円
自己資本比率	41.8%	44.1%	46.1%	46.6%	49.5%

12Vision達成に向けて① ~当社グループの業績推移~

FY2009 Result & FY2010 Forecast

ITバブル崩壊やリーマンショックなどの危機を経験するも、克服後、利益水準はピークに回復。12Vision達成に向け、弛まぬ事業基盤強化や効率化に加え、新規事業立ち上げを加速。





12Vision

2012年度目標

売上高 : 3兆円
営業利益: 2,100億円
ROA : 10.0%

新市場

2. 新市場(グローバル市場)への展開

- ・新興国対応
- ・インフラ需要の捕捉

Global Presence
の向上

1. 内部固めの深耕

- ・モノづくり力の強化
- ・コスト構造の再構築

Top Technology
の強化

3. 新分野への展開

- ・環境など新技術分野への対応
- ・新事業領域への進出

新分野

1. 体質強化促進による損益分岐点比率の引き下げ

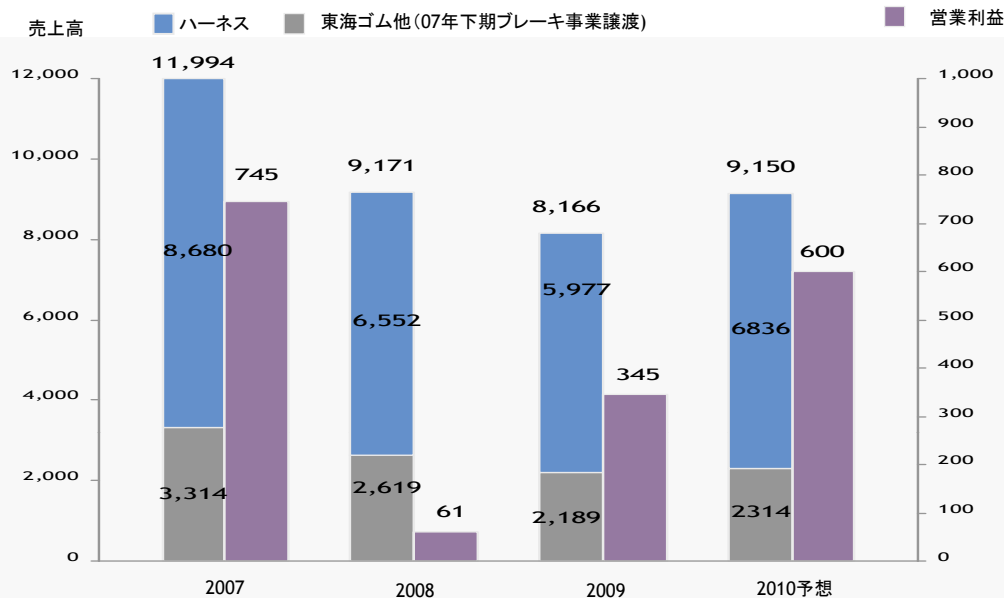
- ・モノづくり力の強化
- ・業務の効率化・生産性向上の取り組み

2. 新製品開発・新事業立ち上げに向けた組織改革推進

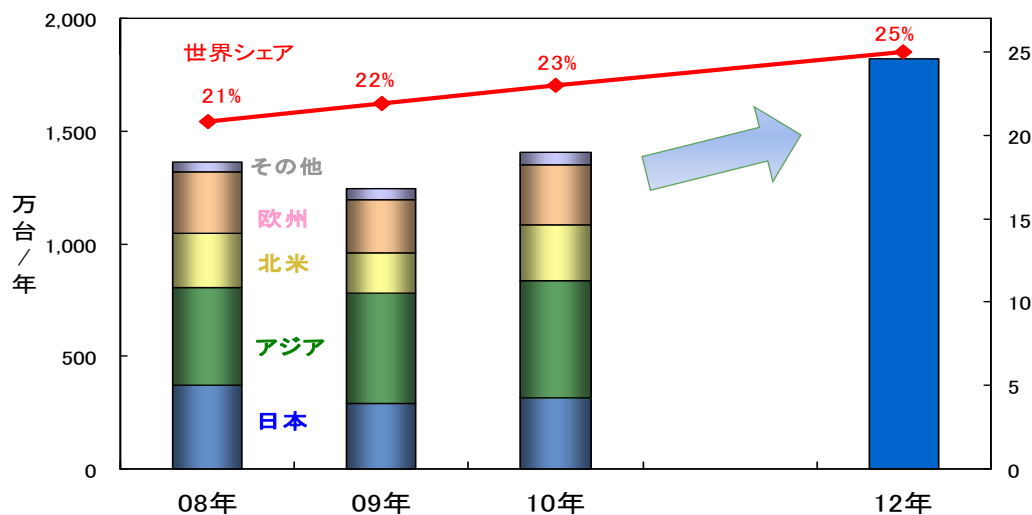
- ・NEXTセンター : 将来の研究開発戦略機能
- ・パワーシステム研究所 : 環境・エネルギーの研究(スマートグリッドなど)を統合
- ・自動車技術企画部: 新興国市場の拡大や環境対応車の普及といった
自動車市場の変化に対応し、新製品・技術開発を推進

＋ アライアンスを含め、グローバル規模での新戦略を立案・実行

売上高／営業利益(億円)



ハーネス当社受注台数 世界シェアの見通し



自動車セグメントの主要課題と進捗状況

■主要課題

①ハーネス・グローバルシェア25%の達成

- 日系 : 重要車種、世界戦略車の確実な受注
- 非日系: 2012年シェア15%獲得

営業及び海外拠点の強化、民族系への対応強化

- 新興国市場の確保: 低価格ハーネス開発
- 受注活動強化: カーメーカーからの転注対応

②需要に対応した生産体制構築、生産最適化

③新製品・新技術開発: 小型軽量、環境対応、ネットワーク化等

- 軽量化 (銅・ステンレス複合導体、アルミ電線、コネクタ小型化)
- HEV・EV向け製品の開発: 床下ケーブル、高圧ケーブル、プラグイン、リアクトル、電池廻り部品等
- POWER & LAN、光ハーネスの開発

■進捗状況

- 非日系受注活動強化
 - 欧米カーメーカーからの転注対応
 - 中国の民族系へのコネクタ、一部ハーネス等参入
- 需要環境に見合った生産体制の構築、人当たり生産性の向上
 - 欧州向け拠点: 東欧→北アフリカ、北米向け拠点: メキシコ→アセアンなど、低コスト地域への生産移管の促進
- HEV車向け高圧ハーネス、周辺製品の開発・受注強化
 - 日系カーメーカーのHEV, EVへ拡販
- アルミ電線の開発・拡販



世界の自動車（乗用車）生産台数予測

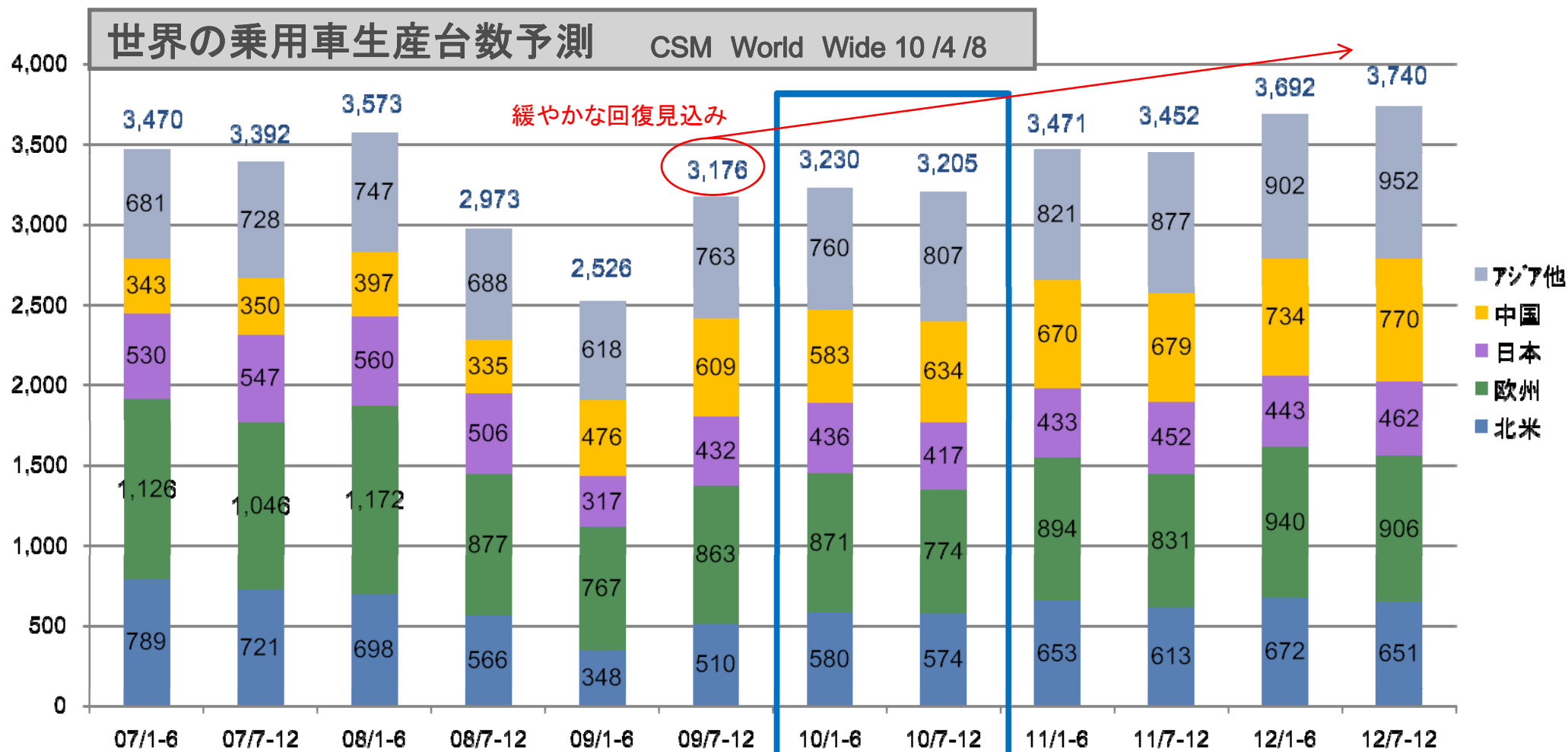
FY2009 Result & FY2010 Forecast

10年度の世界乗用車生産台数(暦年ベース)は、

09年 57.0百万台 → 10年 64.4百万台(+13%) (4-3月ベース(年度ベース)では+6%)。

09年後半(7-12月)との比較では、同水準ながら緩やかに回復する見込み。

地域別では、北米の回復が進むほか、日本・アジアも堅調。一方、欧州は低調の見込み。



ワイヤーハーネスの受注予想

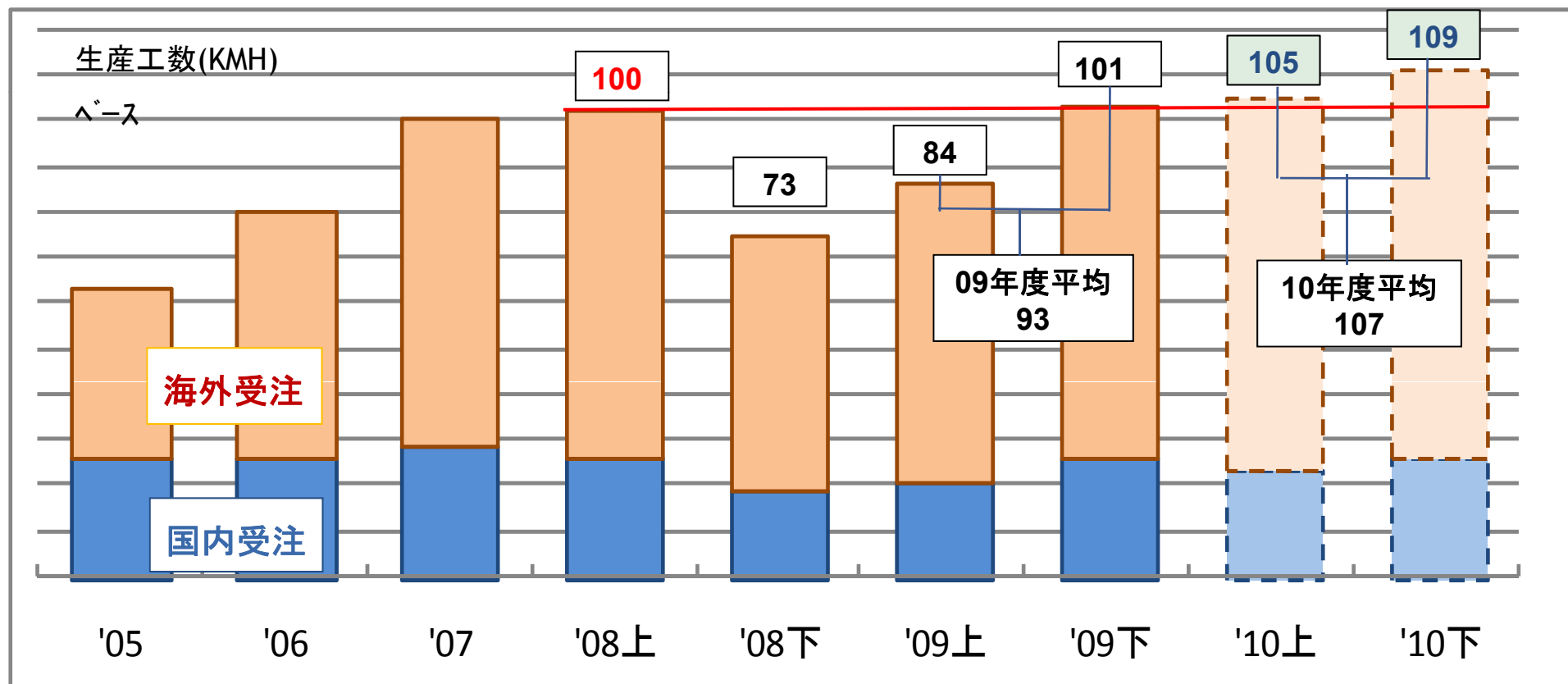
ワイヤーハーネス受注予想

自動車需要の回復に伴い、08年上期(08年4-9月)を100とした場合

09年度平均 93→10年度平均 107 (+15%) (4月-3月 年度ベース)

09年下期(09年10-3月)との比較では、約+6%の伸び。

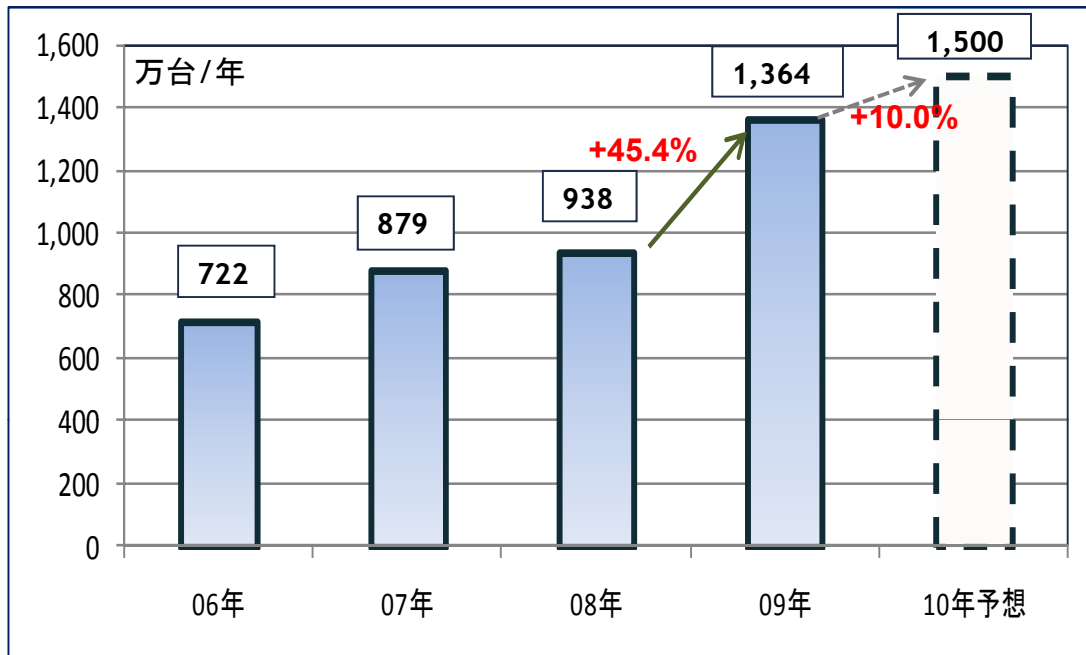
他社からの転注、外資系カーメーカーへの拡販 が寄与し、市場の伸びよりも高い水準。



注: 決算による3ヶ月の期ズレを補正していないベース



中国 新車販売台数の推移



09年は、世界自動車市場が縮小するなか、中国の新車販売台数は1,364万台(+45.4%)と大幅な伸び。世界一の自動車市場へ。

10年は1,500万台(+10%)の予測(中国自動車工業協会)。

中国での生産能力増強

当社が主要サプライヤーである、VW・現代・日系カーメーカーなどが中国での生産能力増強を発表

当社グループも、受注拡大に向け、新工場設立を含めた中国生産能力の増強を推進

低価格ハーネスの開発

- ・オーバースペック部分を見直し、基本性能・機能を満足することに特化。
- ・金型、部材の大幅なコスト低減を図る。

中国拡販活動

- ・欧米・日系カーメーカーの新興国戦略車への拡販
営業所新設など、顧客対応を一層強化。
- ・中国民族系への拡販
一部ハーネスに参入、但しローカルサプライヤーが対応できない部品が中心。ハーネス全体受注には一層のコスト低減が必要。



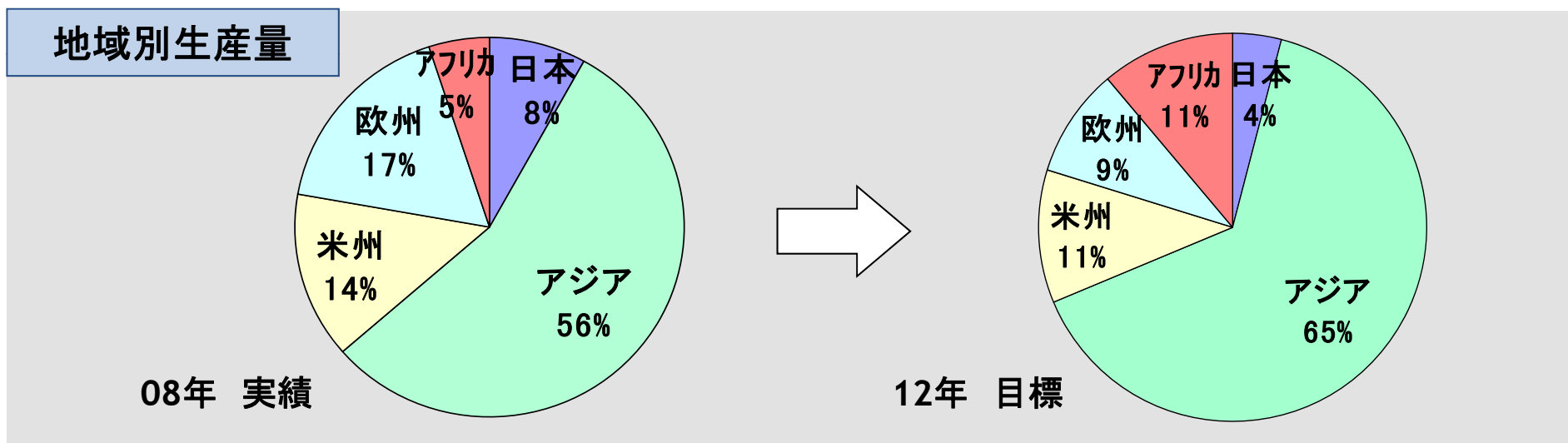
コスト低減の取り組み

組立工程の簡素化・効率化、VAなどの原価低減活動を一層加速。
併せて、中・長期的に、生産最適化、次世代ライン(自動化)に注力。

生産最適化の加速

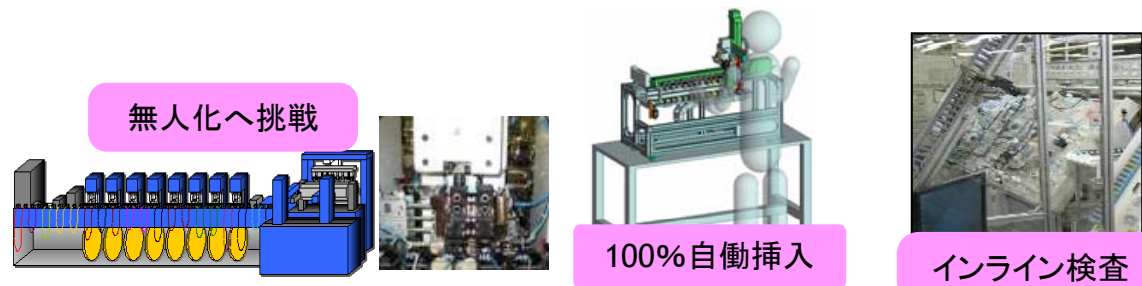
グローバルな製造拠点(海外製造拠点66ヶ所)を活用し、マーケット・生産規模・人件費水準・為替などを勘案しながら、低コスト地域への生産移管を加速。

日本は開発・マザー工場に特化、中国・東南アジア拠点(日本、北米向け)、アフリカ拠点(欧州向け)を活用



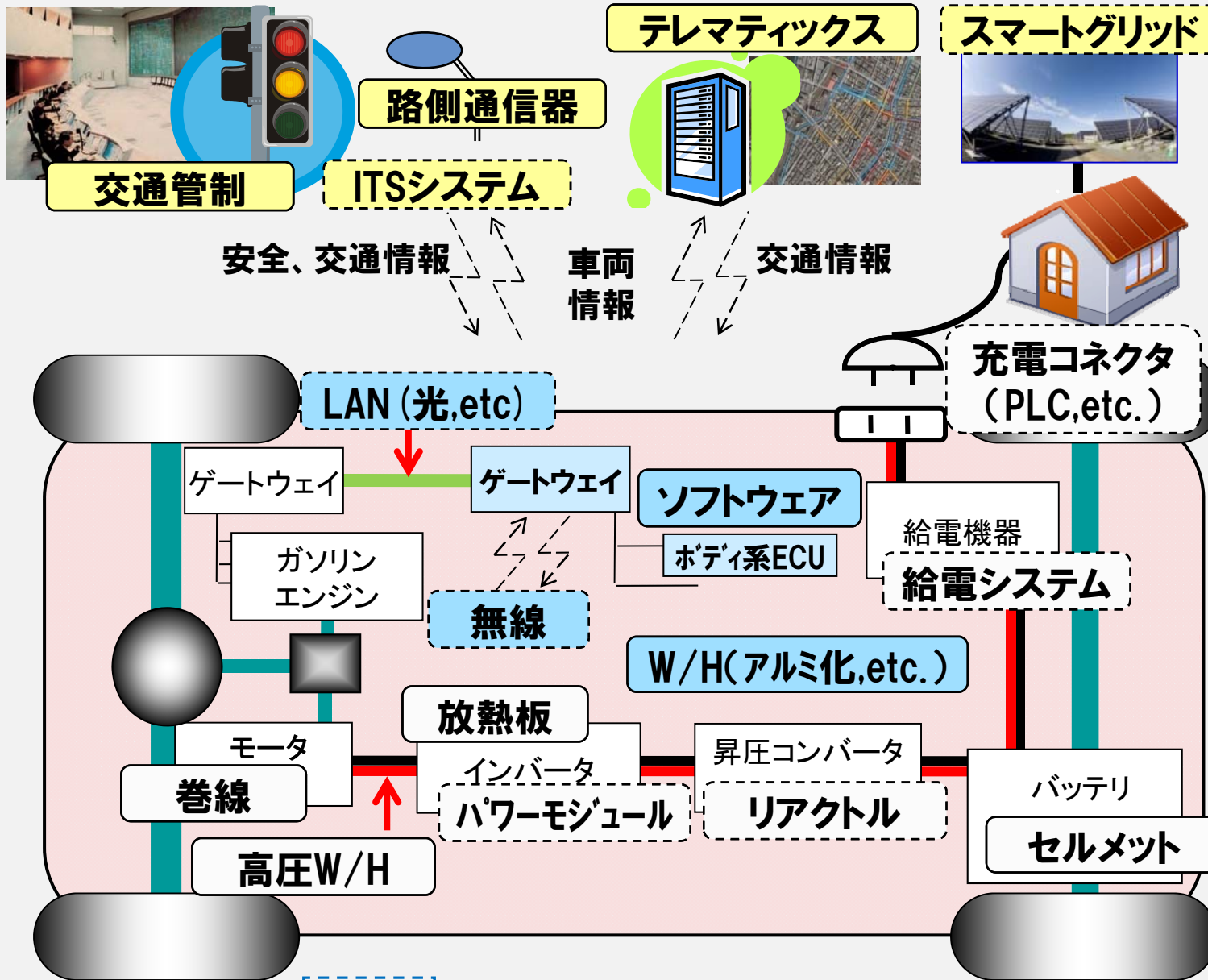
次世代のモノづくりへ向け、自動化を推進

コスト競争力確保・工場スペース効率向上に向け、既存自動機のフル活用と、次世代ラインの開発に注力



自動車市場の変化に対応した新技術開発の注力テーマ

FY2009 Result & FY2010 Forecast



情報通信、電線・機材・エネルギーなど、SEIグループ技術を融合した製品開発、拡販を推進

材料を活かしたHEV基幹部品(EV用含)とその関連部品

W/H、ソフトを活かした車内インフラとその関連部品

ITS、通信、無線を活かした車外インフラとその関連部品

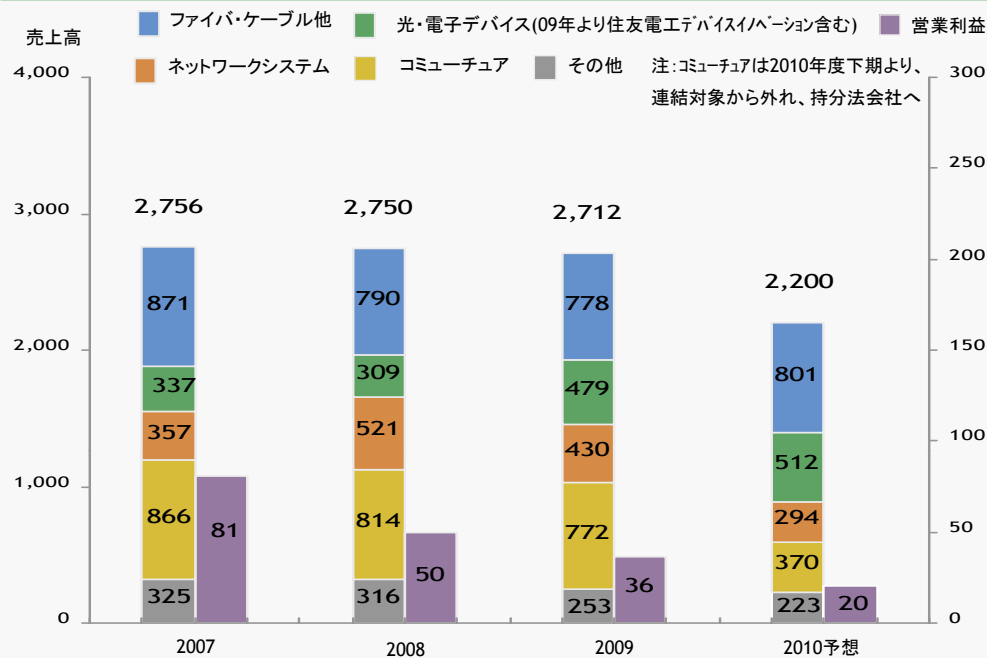
点線は開発中のもの



成長戦略－情報通信セグメント

FY2009 Result & FY2010 Forecast

売上高／営業利益(億円)



情報通信セグメントの主要課題と進捗状況

■主要課題

- ①価格競争力の強化、コスト低減
- ②海外ブロードバンド・FTTH関連需要の捕捉、グローバル事業展開
- ③通信用光部品のシェア拡大、10G製品群拡充、40G/100G製品展開
- ④無線通信用電子デバイスの売上拡大。GaNをベースとした製品群拡充
- ⑤NGN(次世代ネットワーク)対応ネットワーク機器、無線関連製品の開発・拡販

■進捗状況

■光ファイバ

- 国内需要停滞に対応し、新興国(中国・インド・東南アジア等)の需要捕捉
- 中国現地資本富通との光ファイバ合併事業の推進
本年9月の杭州光ファイバ母材製造会社の円滑立ち上げ
- Nexansとの光ケーブル合併会社(ベルギー)の欧州市場拡販促進

■光機器

国内製造拠点再編、営業力強化(本年7月トクニ、住電ハイプレジジョン合併)

■光・電子デバイス

- 09年4月の旧ユーディナデバイス社の100%子会社化を経て、8月に発足した住友電エデバイス・イノベーション(以下SEDI社)を開発・製造の中核として、技術融合や製造拠点の見直しを含む統合運営を推進。
- 光部品では、旧ユーディナデバイス社のハイエンドデバイスを生かした10G製品の競争力強化と品種拡充に加え、40G/100Gの取組も加速
- 電子デバイスでは、GaNやNode間通信用MMICデバイス等、高付加価値製品の投入と生産性向上に注力

■ネットワーク機器

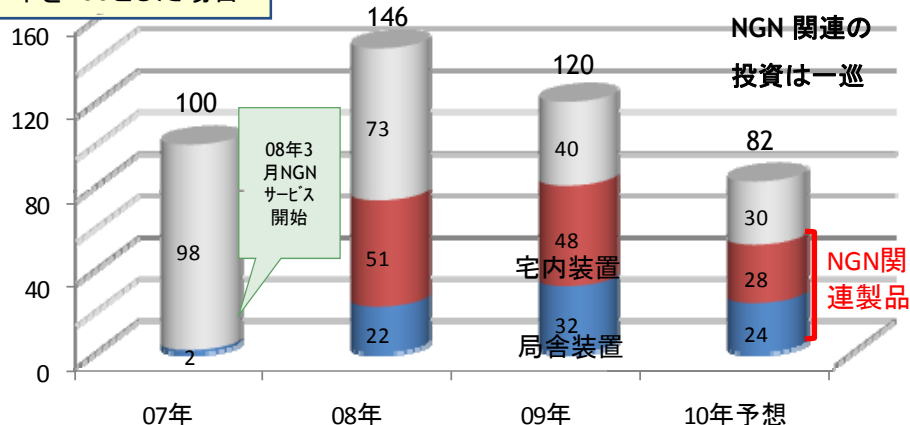
- 当面のNGN関連設備投資は一巡するも、NGN利用端末、無線関連などの新製品拡販、及びNGN用次世代高速伝送装置の開発に注力
- 海外成長市場への展開。GE-PONなど、アジア中心に拡販

■コミュニティ

- 本年10月 大明(株)、東電通(株)と持株会社設立による経営統合へ

ネットワーク機器の売上推移

07年を100とした場合





中国での光ファイバ・ケーブル生産体制確立

FY2009 Result & FY2010 Forecast

富通との協業を深耕し、高まる需要への生産能力対応、各地域での生産拠点充実を図る。

中国でのプリフォーム(母材)生産開始 (富通住電光纖(杭州) 10/09稼働予定)

- 富通とのJV
- 普天とのJV

成都地区

富通住電光纖(成都)

SFC (SEI:49%)

・線引 ・ケーブル

・09/1より稼働

成都中住光纖

CDSEI (SEI:普天=40:60)

・線引

華南地区

住電富通(香港)

SFH (持株会社)

SEI:49%

住電光纖光纖(深圳)

SEFC

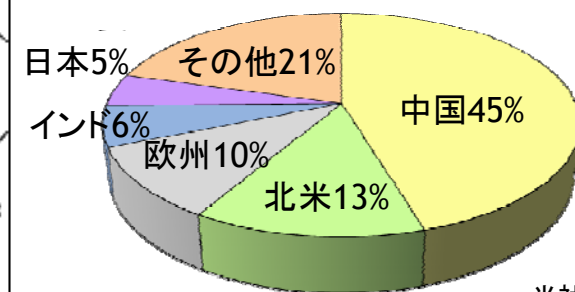
・線引 ・ケーブル

高科橋光通信

TOCCL

・線引

09年世界需要 170百万kmf



当社推定

華東地区

富通住電光纖(杭州)

SFF (SEI:51%)

・母材 ・線引

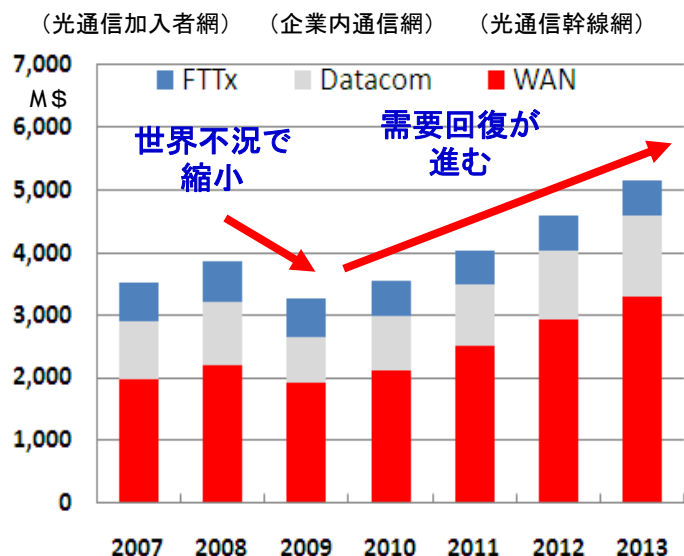
・計画通り10/09稼働予定



光・電子デバイス事業の取り組み

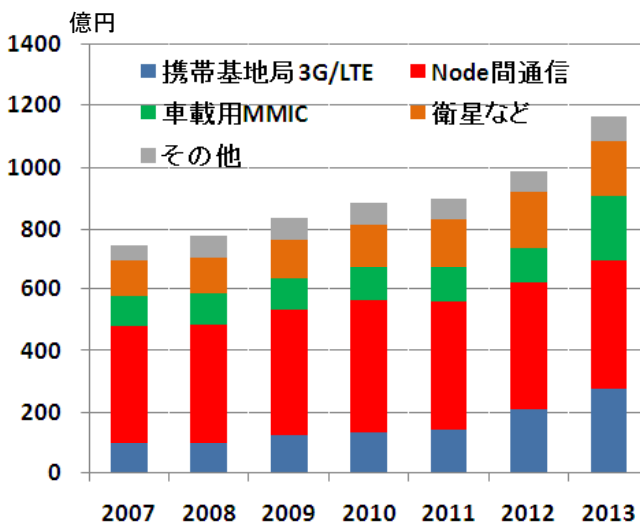
FY2009 Result & FY2010 Forecast

(1) 光部品市場動向



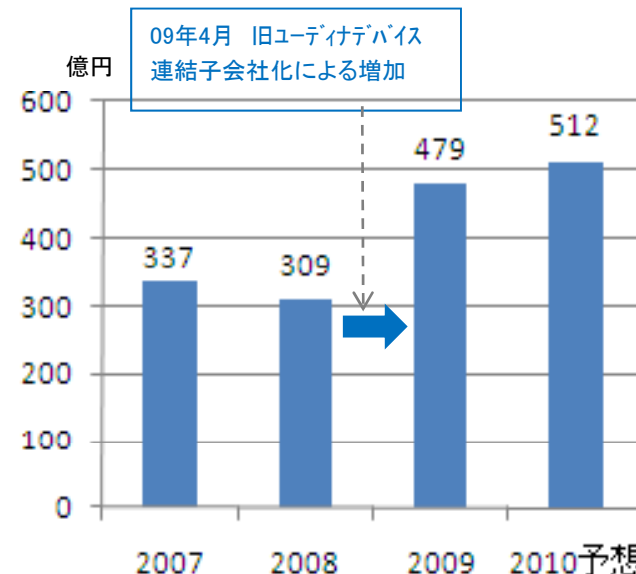
出典: Ovum-RHK (February & March, 2010)

(2) 電子デバイス(無線通信)市場動向



出典: ABI research, EJI wireless Researchを基に当社推定

(3) 当社光・電子デバイス売上予想



市場は緩やかに回復
→10年度は市場並の売上増を予想

<当社戦略>

● 高付加価値製品の強化

● 一層のコスト削減

・円高対策としての海外生産移管

・旧ユーティデバイス(現:SEDI)を100%子会社化したシナジー効果追求

<光部品の取組>

- ・中国(蘇州)製造子会社への生産移管、現地部品調達化
→ 円高対応とコスト削減を一層推進
- ・シナジーを活かした製品開発
→ 高速化(40G/100G)、高機能化(波長可変他)等

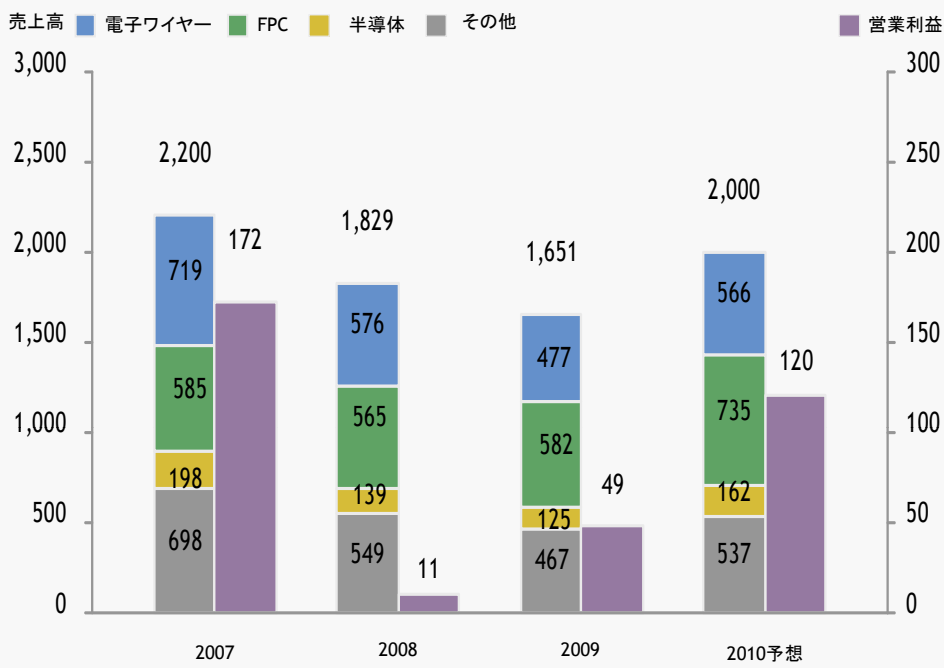
<電子デバイスの取組>

- ・高性能デバイスが生かせる無線通信市場に注力
→ 新興国の携帯電話市場向けMMIC(モノリシックマイクロ波IC)等
- ・GaN(窒化ガリウム)を用いた先端製品開発(レーダ・高周波衛星通信用等)

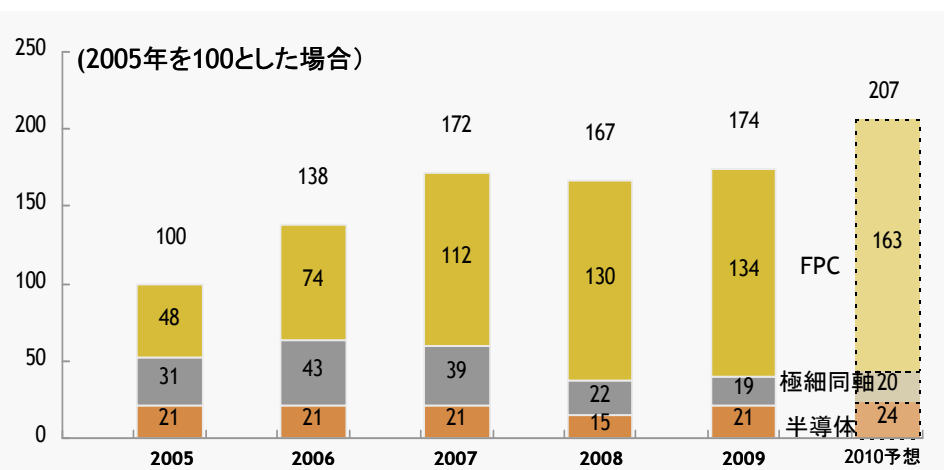
成長戦略 – エレクトロニクスセグメント

FY2009 Result & FY2010 Forecast

売上高／営業利益(億円)



携帯用極細同軸/FPC/半導体売上



エレクトロニクスセグメントの主要課題と進捗状況

■主要課題

- ①成長分野(携帯、液晶、ストレージ、ゲーム機等)向け製品の強化・拡販
- ②新興国市場対応を中心としたグローバル営業・生産体制の強化
- ③高付加価値製品の拡販と主力製品の原価低減
- ④新製品投入と新技術開発

■進捗状況

■電子ワイヤー

- 薄型TV等デジタル家電関連製品向け拡販
- 車載リチウムイオン電池用タブリード(FC)の円滑な立ち上げと拡販
- 中国ローカルのエレクトロニクス向け需要(ハロゲンフリー電線、スミット等)の捕捉
- 車載用、医療用の拡販

■FPC

- 海外営業体制を強化し、外資系顧客への拡販強化
- スマートフォン、HDD、ゲーム機向けなど高付加価値品の拡販強化
- 部品実装・モジュール化ビジネス拡大
- 海外上工程展開(中国他)によるコスト低減

■半導体

- GaN基板のBlu-Ray向け拡販と、ハイパワーLED向け用途拡大と拡販
- グリーンレーザ用GaN基板の開発促進と、早期ビジネス化
- 携帯電話向けGaAs拡販・シェアアップ

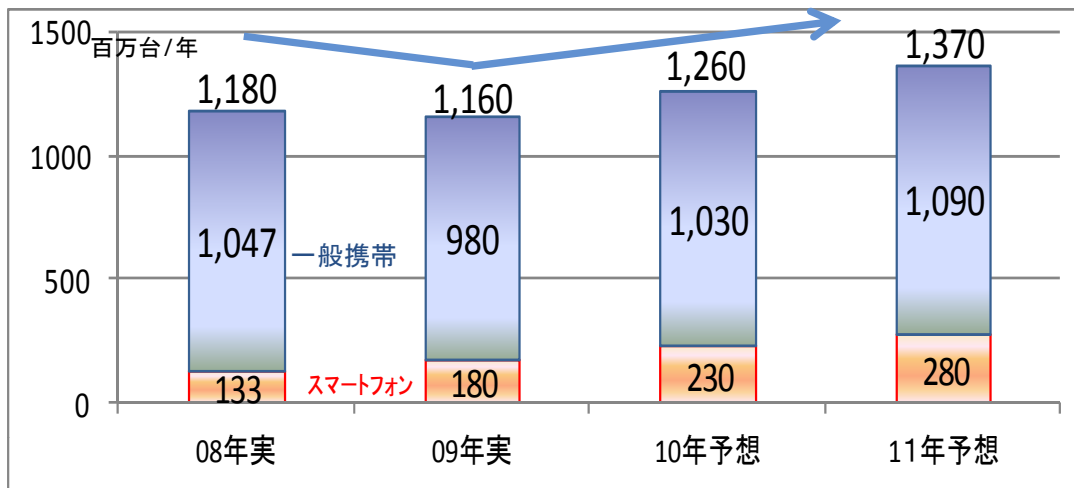
■その他

- 水処理用精密濾過膜モジュールの事業推進、中国など市場開拓
- 金属ナノ粒子材料事業の拡大

FPC事業の現状と取り組み

FY2009 Result & FY2010 Forecast

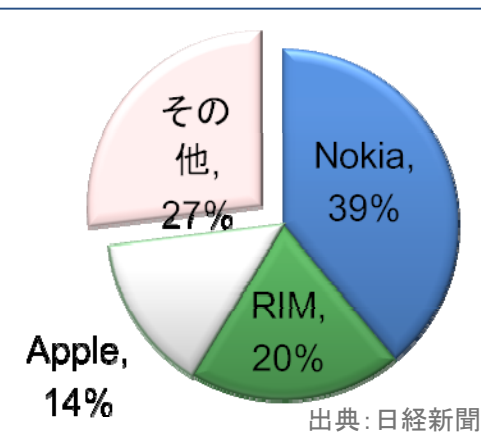
世界の携帯生産台数予測 出典:ミック経済研究所



<携帯電話の市場環境>

- ・09年度の世界携帯販売台数は、01年度以来のマイナス成長
- ・10年度は+9%の成長予想。(Nokia予想は暦年で+10%)
- ・高機能携帯(スマートフォン)市場は、30%近い伸び。

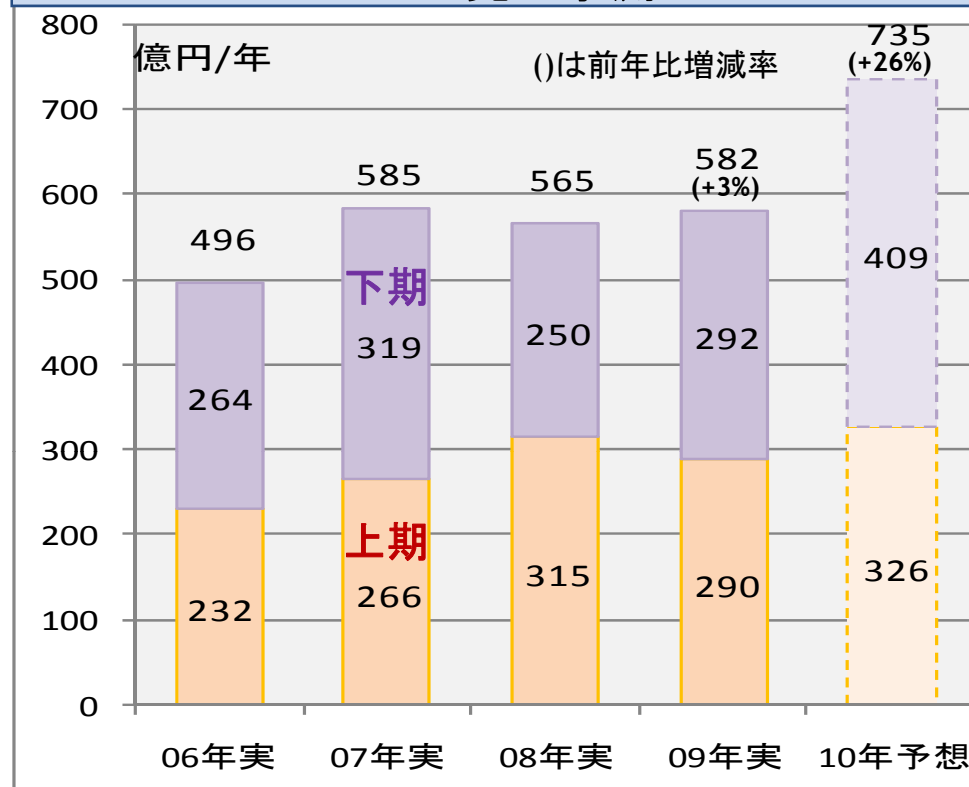
09年 スマートフォン世界台数シェア



課題

- ・高付加価値品に注力
スマートフォンは上位3社(左表)で世界シェア70%以上
⇒ **上位3社への拡販**
- ・中国での一貫生産による **コストダウン**
- ・高密度実装モジュール化推進

FPC 売上予測



<中国新会社設立(2010年4月)>

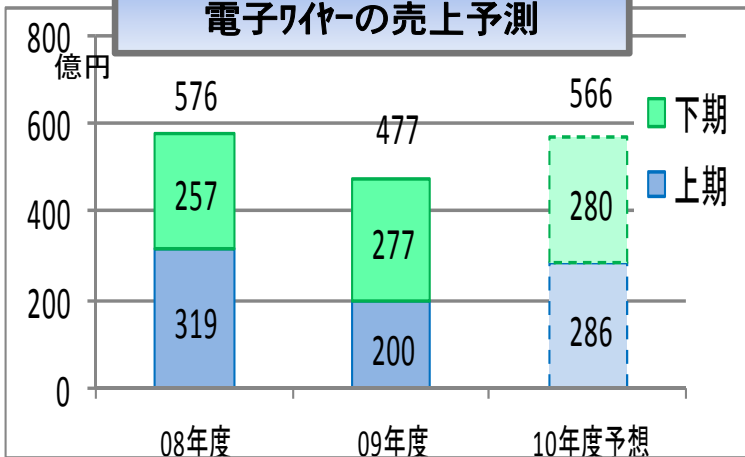
- ・会社名 住友電工電子製品(深圳)有限公司
- ・立地 深圳市宝安区
- ・規模 FPC人員約5,000人
- ・狙い 中国国内ユーザー拡販
コストダウン 2010年夏から一貫生産開始予定
(上記を委託加工方式からの転換で実現)



電子ワイヤー事業の取り組み

FY2009 Result & FY2010 Forecast

電子ワイヤーの売上予測



09年度→10年度 売上 +19%

自動車用途・・・世界の自動車生産台数の回復に伴い増加

家電用途・・・薄型TV・関連機器を中心に需要増加

携帯・医療用途・・・携帯用は、海外の搭載モデル減少とFPC化でピーク時より需要減少も、前年比では増加の見込み。医療用も堅調。

2010年度 電子W 用途別内訳

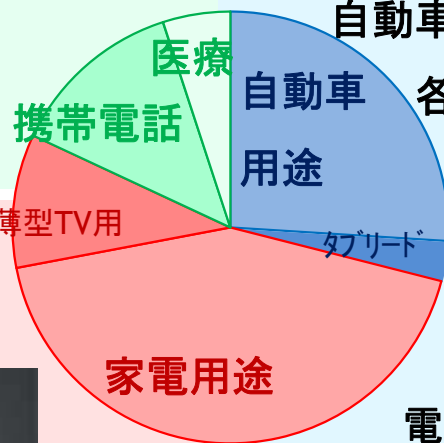
極細同軸ケーブル(携帯・医療用)

携帯、PCのヒンジ部分、医療用では、超音波診断装置センサーケーブルなどで使用。

耐熱照射電線

耐熱性に優れた電線。

自動車のエンジン、EVモーター、各種センサー等幅広い分野で使用



タブリード

リチウムイオン電池向け。電気自動車市場の立上で、今後の飛躍が期待。



極細同軸ケーブル



耐熱照射電線

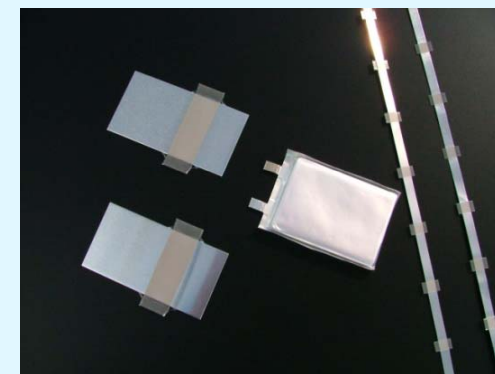
エコワイヤー、スミカード他 薄型TV、ゲーム機、DVD (Blu-Ray)、ビデオカメラなど、各種機器で使用。



エコワイヤー



スミカード



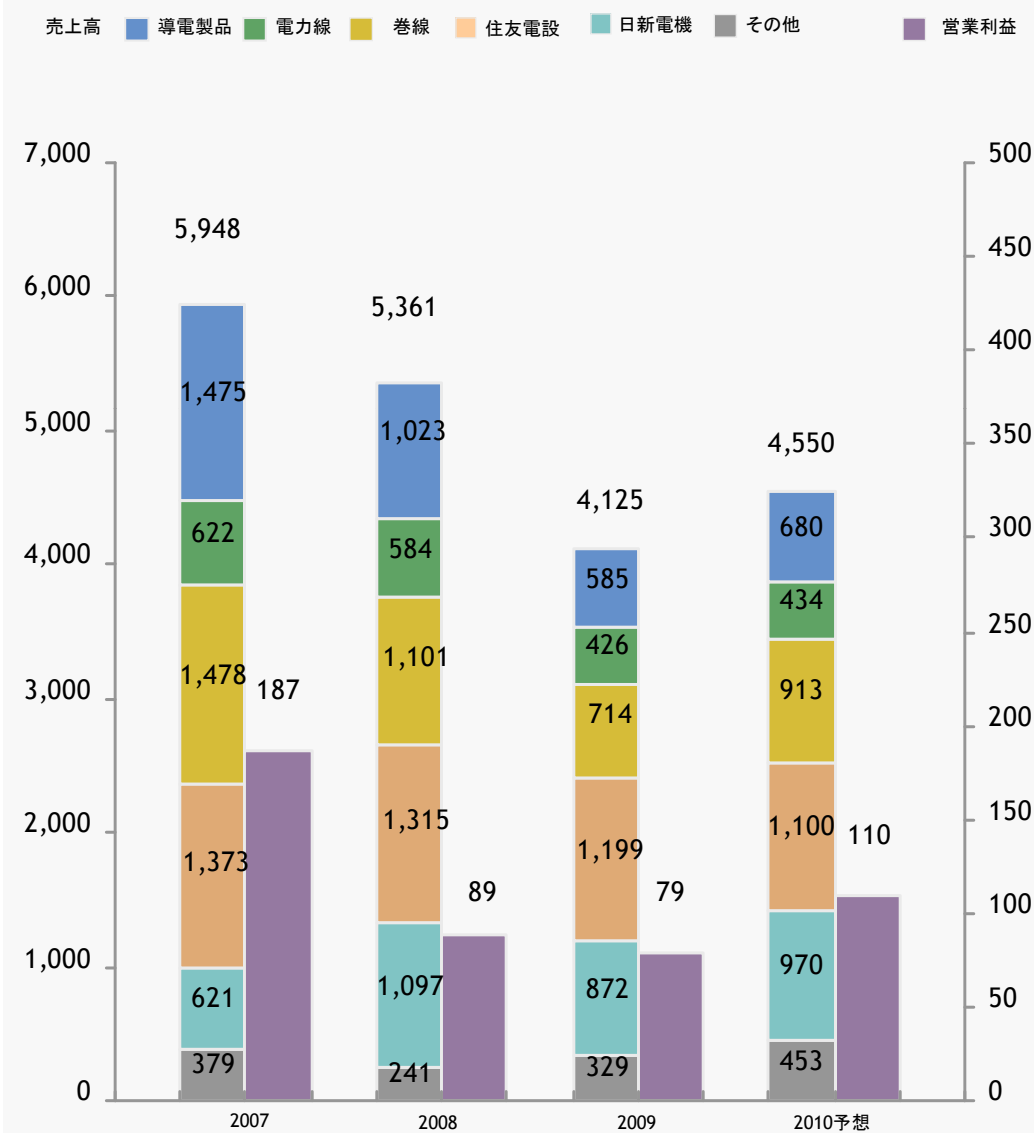
タブリード



成長戦略－電線・機材・エネルギーセグメント

FY2009 Result & FY2010 Forecast

売上高／営業利益(億円)



電線・機材・エネルギーセグメントの主要課題と進捗状況

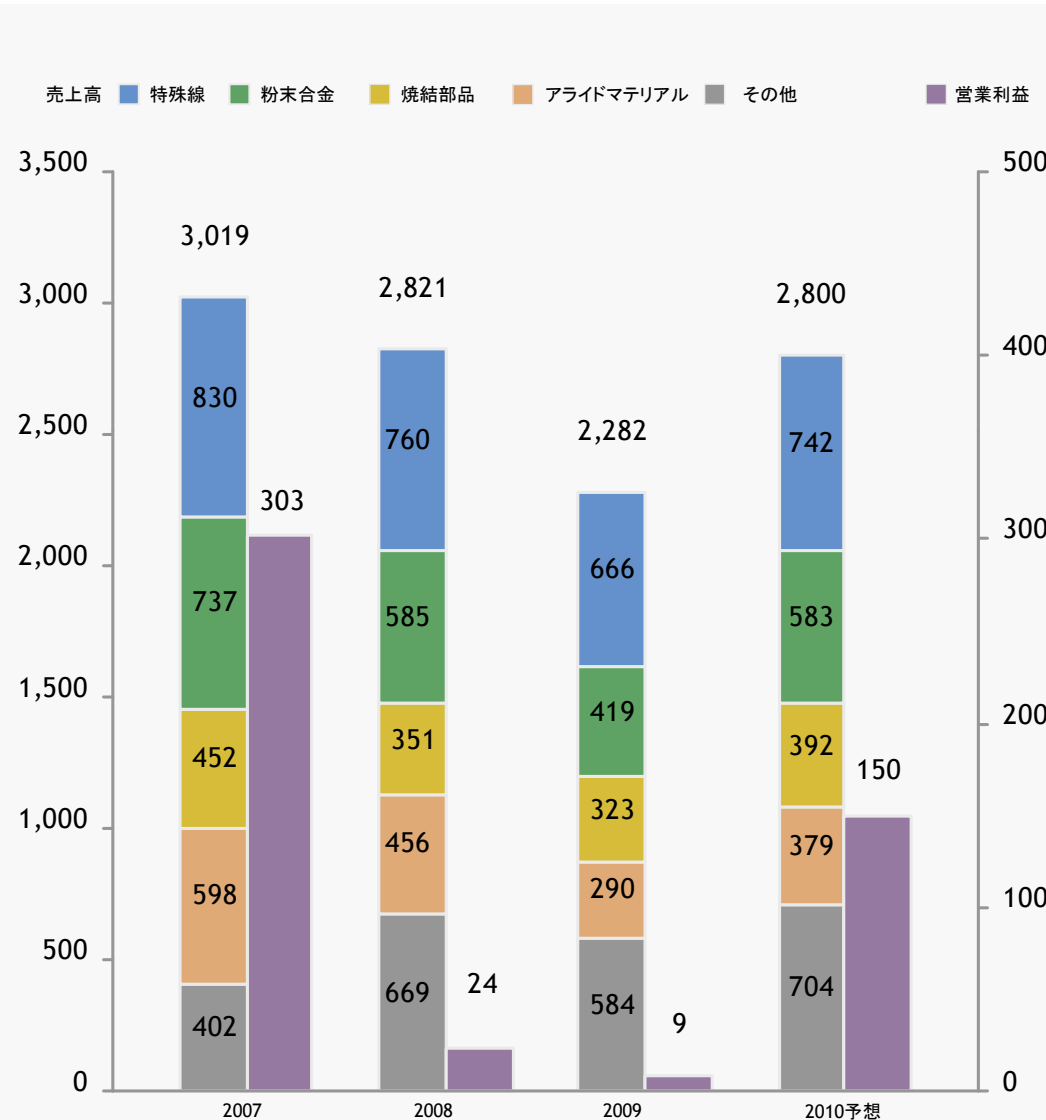
■主要課題

- ①成熟分野の更なる構造改革と徹底したコスト低減
- ②中国・インド・中東等、エネルギー関連需要が旺盛な海外市場への拡販
- ③自動車・エレクトロニクス市場への製品展開
- ④エネルギー・資源・環境分野での新規事業開拓

■進捗状況

- アジア、中東の電力インフラ需要捕捉と高圧ケーブルのグローバル生産体制確立
インドにて、JPS(当社50%:持分法適用会社)と現地資本との合弁会社設立(2011年稼働予定)
サウジアラビアでもJV設立(2011年稼働予定)
- 再生可能エネルギー(太陽光・風力など)の活用、電力効率化に向け、関連製品の開発、拡販
- HEV向等、高強度、高電圧対応巻線の開発と市場投入
- 巻線の総原価低減、黒字化
- ハイブリッドカー搭載電池用セルメットの生産能力増強
- 鉄道需要の増加に応じた、空気ばね、トロッコ線の拡販
- 超電導ケーブル、超電導応用機器の研究開発と実用化

売上高／営業利益(億円)



産業素材セグメントの主要課題と進捗状況

■主要課題

- ① グローバル事業展開の加速(グローバルベスト3製品)
- ② コア技術(新材料及び新製品の開発、加工技術等)の更なる強化、差別化
- ③ 航空・エネルギー等、自動車以外の分野への製品展開
- ④ タングステン等の原材料資源の安定確保

■進捗状況

■ 特殊線

- 橋梁用や空港整備などPC鋼材事業の国内外需要の捕捉
- 太陽電池向けソーワイヤー拡販
- スチールコードの海外拡販とコスト低減
住友ゴムとタイアップしたグローバル事業展開

■ 粉末合金

- 中国支店網拡充(大連他)など、新興国向けの営業強化
- TA, CBNなど国内生産拠点の集約と海外量産拠点検討
- 自動車以外(航空機、発電、鉄道など)の分野への営業強化
- 超硬工具のリサイクルにつき名古屋大学と共同研究継続

■ アライドマテリアル

- 液晶用ターゲット材、ヒートシンク、ダイヤ固定砥粒ワイヤソーなどの拡販と原価低減

■ 焼結製品

- 世界最適生産(生産拠点集約とコスト低減、中国拠点増強等)
- 環境対応型製品開発強化(VVT、CVT等)

超硬工具のグローバル営業・生産体制の構築

FY2009 Result & FY2010 Forecast

海外拡販〔09年度海外売上高比率 49%→12年度目標 55%〕に向け、グローバルな営業・生産体制を確立

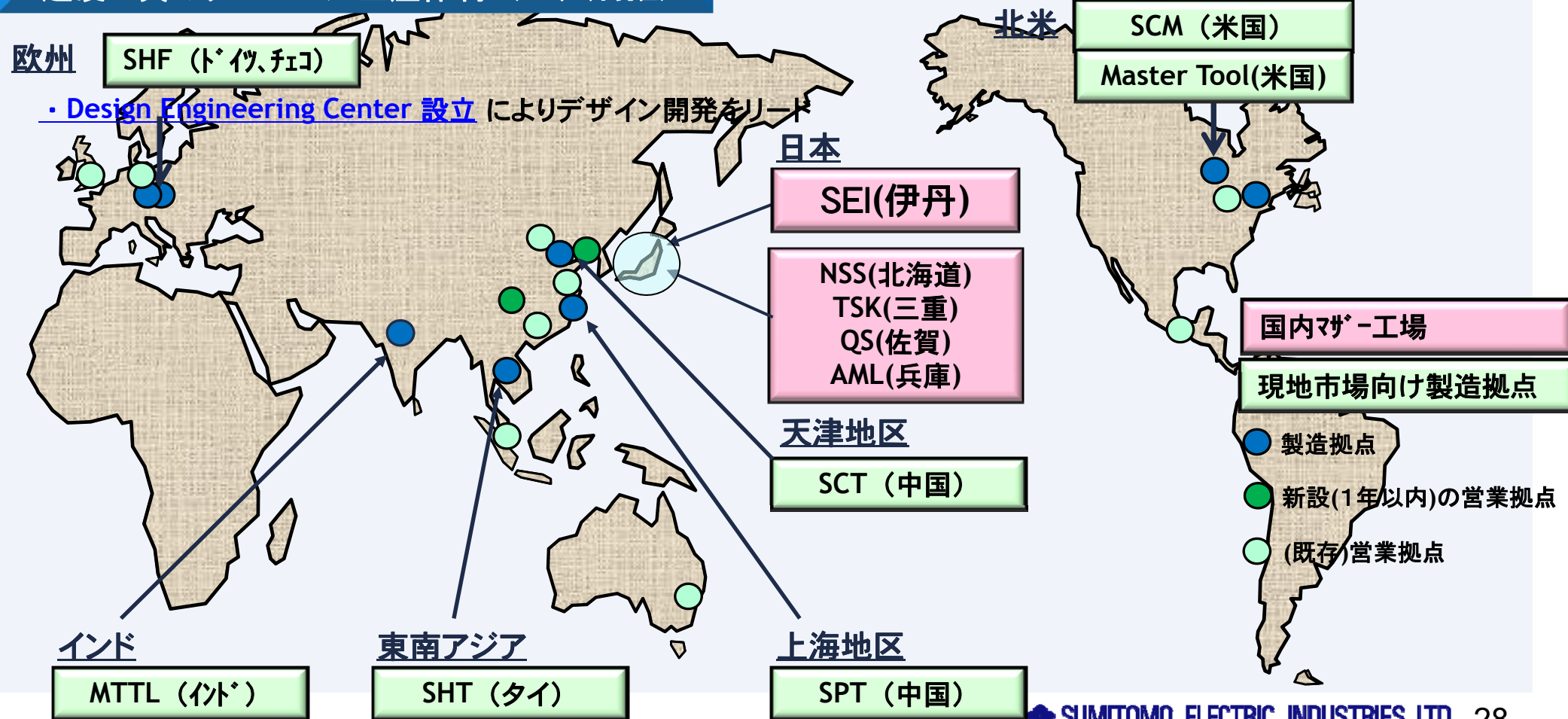
進捗状況：中国（大連、重慶）に営業拠点を新設

：コスト低減とグローバルな供給拠点として、**量産拠点の設立を検討**

：資源・環境保全とコスト低減に向け、**タングステンのリサイクル拠点を富山に設立**

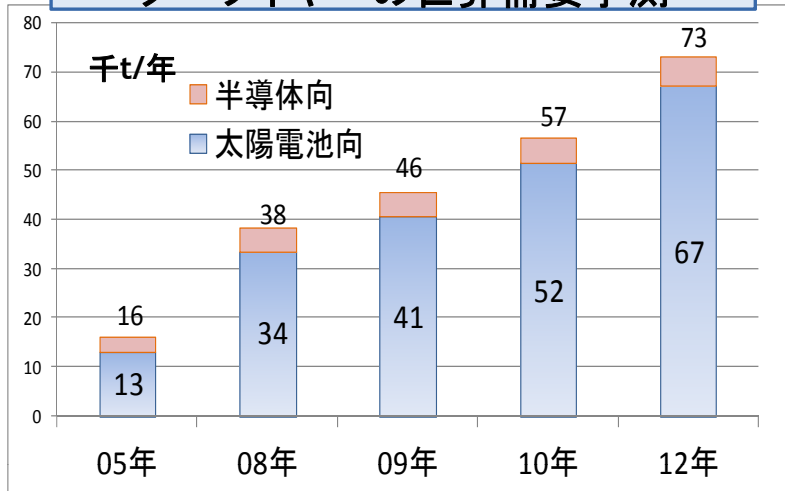
：インドでのマルチドリルの製造を開始

超硬工具のグローバル生産体制（10年4月現在）



ソーワイヤー事業への取り組み

ソーワイヤーの世界需要予測

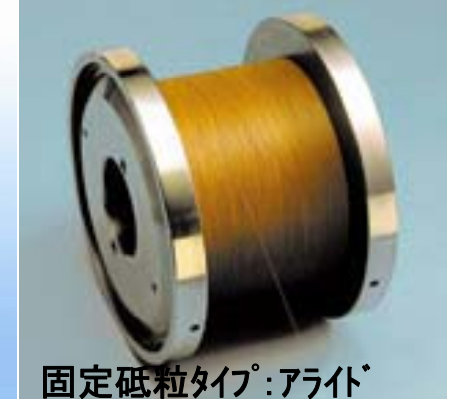


半導体や太陽電池のシリコンインゴット切断用ワイヤー。再生可能エネルギー需要高まりで、太陽電池向けが増加。

ソーワイヤー製品



※遊離砥粒タイプ: 特殊線



固定砥粒タイプ: アライド

従来

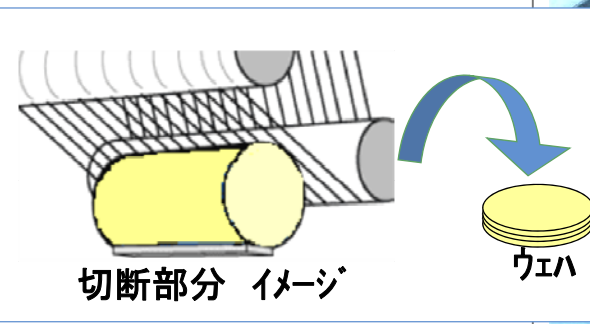
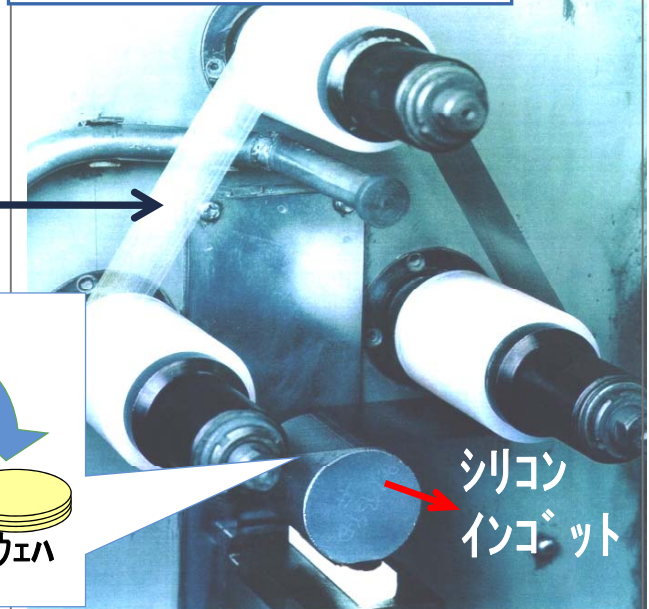
半導体・国内中心



今後

太陽電池シリコンインゴット切断用拡販
遊離砥粒タイプの拡販、海外(アジア)需要を確保
固定砥粒タイプでの新規需要獲得

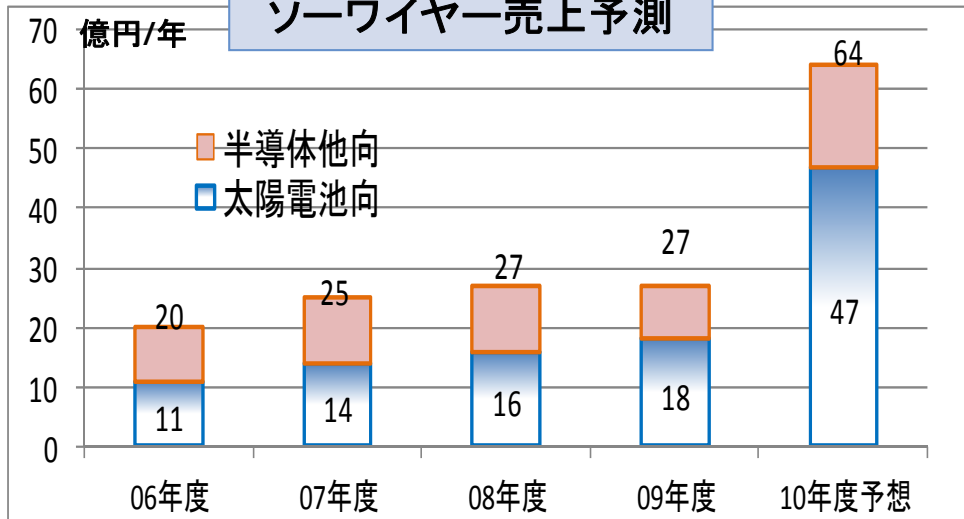
ソーワイヤーの使用例



シリコン
インゴット

(※参考) 遊離砥粒・・・加工対象の表面を砥粒が転がることで研磨する。太陽電池シリコンインゴットの切断分野では現在は大半を占める。固定砥粒・・・ワイヤーに固定した砥粒で研磨する。環境配慮製品で、耐久性に優れる。太陽光関連で今後の需要拡大が期待される製品。

ソーワイヤー売上予測





新製品・研究開発 ～コア技術を活用した新規事業領域への展開～

FY2009 Result & FY2010 Forecast



環境自動車向け部品

ナノ多結晶ダイヤモンド
CBN-セラミックス複合材料
原材料リサイクル技術

革新的低環境負荷型素材・
システム技術へのチャレンジ

薄膜線材 船用超電導モータ
超電導コイル
薄型高性能モータ

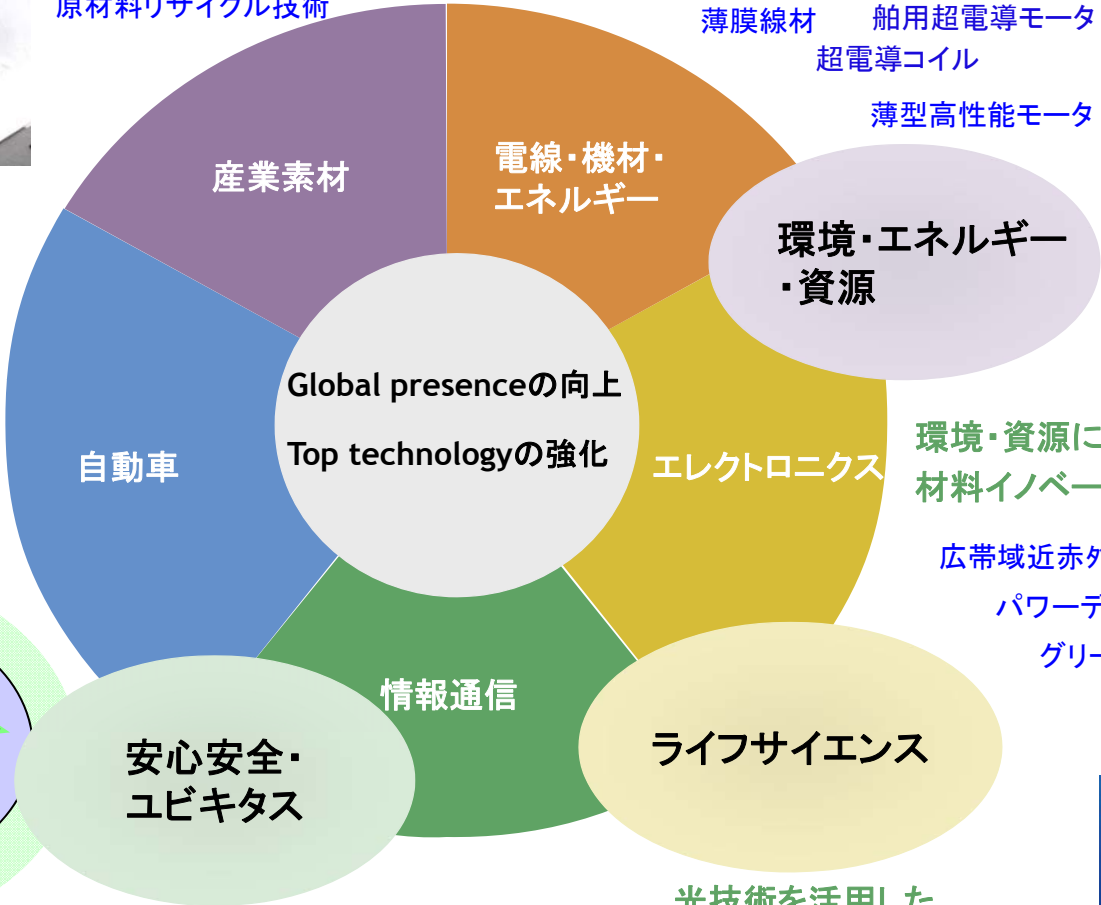


ビスマス系高温超電導線材
水処理、バラスト水処理装置
高密度電池材料・薄膜電池

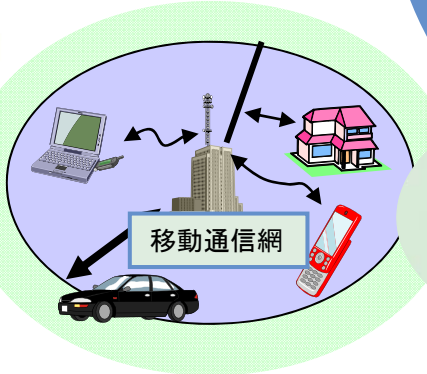


次世代安全・環境
自動車に向けた
材料イノベーション
HEV/EV関連技術
ハーネス軽量化技術
車載光LAN、リアクトル

リアクトル



フェムトセル
(超小型無線
基地局)



無線アンプ・デバイス
ビジュアル情報システム



高効率無線
増幅器

通信・放送融合と固定・無線統合
に対応する中継器・ITS機器への展開

次世代光通信事業への展開

光分岐ネットワーク (PON)
次世代伝送技術(40G・100G)
フォトニック結晶ファイバ
光情報配線(光USB)



大容量高速光トランシーバ

ライフサイエンス

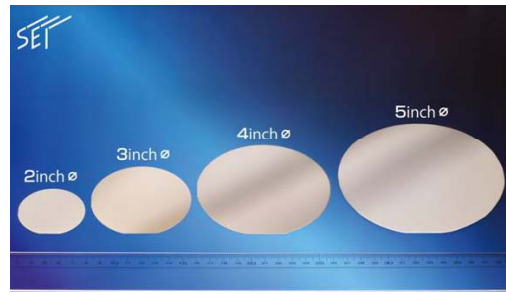
光技術を活用した
非通信収益事業の創出

青紫レーザダイオード
ファイバレーザ 高機能ガラス
近赤外光による組成イメージングシステム

環境・資源に優しい
材料イノベーション
広帯域近赤外光源
パワーデバイス
グリーンレーザ
Mg合金



Mg合金



GaN基板



研究開発の取り組み

FY2009 Result & FY2010 Forecast

本年4月 **新研究本館「WinD Lab」**(研究棟、講堂含む)が竣工。研究開発の環境整備促進。

- ・研究環境整備
- ・所内に分散している研究部門を集結し、部門間・研究者間の交流を促進
- ・設備の共有・共用化
- ・社外とのコミュニケーション・コラボレーションを強化

を通じて、創造性に富んだ研究開発を促進するとともに、研究開発の効率化を図る。

- ・環境への配慮
- ・屋上・空地に2900m²の緑地整備、省エネルギー設計(目標 現状比10%改善)



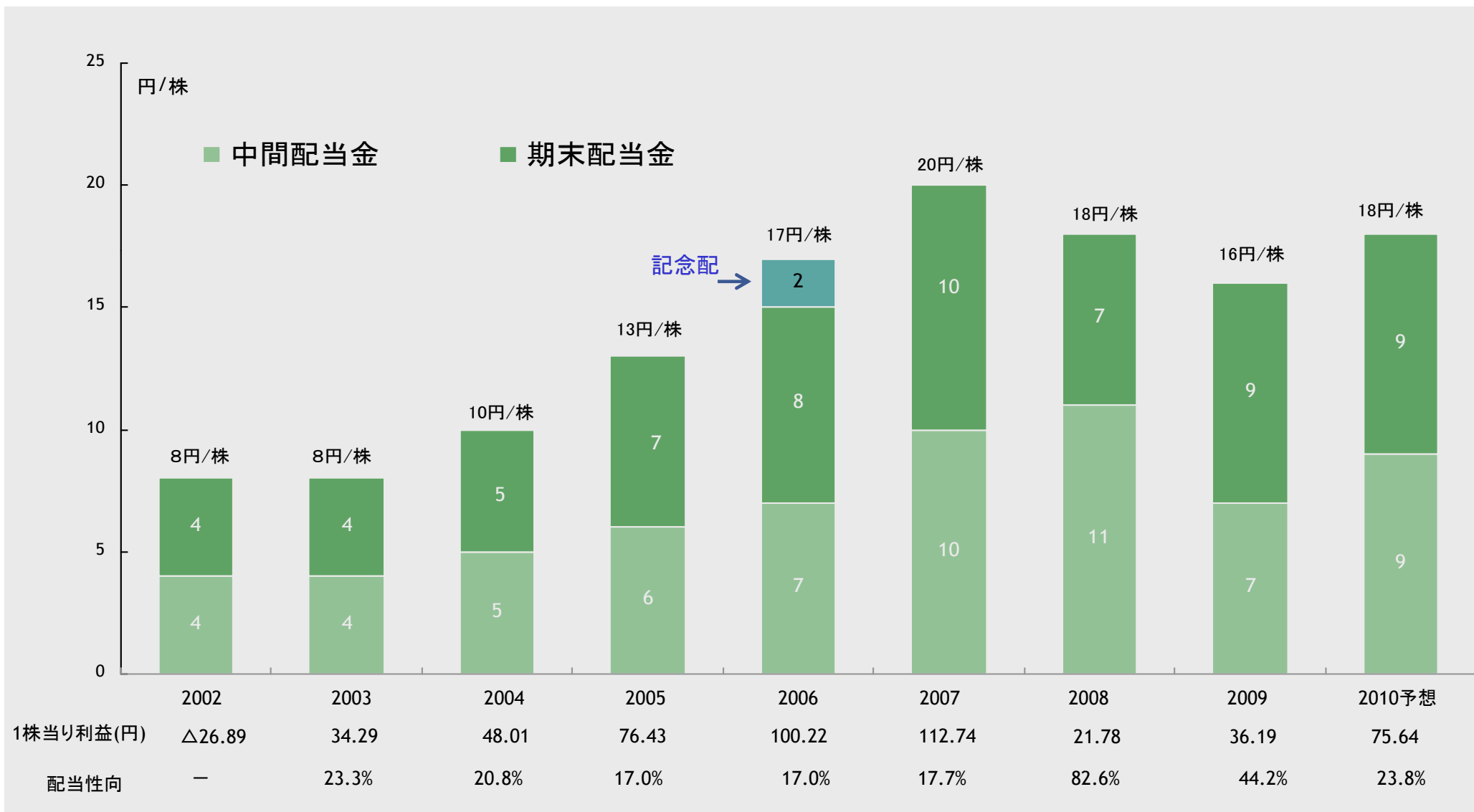
↑ 新研究本館「WinD Lab」竣工式 2010/4/28



株主還元について～配当金・配当性向～

FY2009 Result & FY2010 Forecast

- ・ 2009年度は、期末配当を9円とし、年間16円/株(年初公表14円/株)の配当。
- ・ 2010年度は、業績改善に伴い18円/株を予定。





住友電工グループのCSR取り組み

FY2009 Result & FY2010 Forecast

住友電工グループ社会貢献基本理念

「住友事業精神」、「住友電工グループ経営理念」
に則ったキーワード



1. 人材育成、研究・学術振興、環境保全に資する取り組みを
グローバルに推進します

2. 国内外の事業拠点において地域に密着した
社会貢献活動を推進します

3. 社員の社会貢献活動に対して継続的な支援を行います

Ingenious Dynamics

社会貢献活動の事例

1. 住友電工グループ社会貢献基金の設立

国内外における人材育成支援と学術・研究助成を目的とした
基金を09年4月設立、**10年2月に公益財団法人として認定**

＜基金の事業内容＞・・・10年度の新たな取り組み

- ① 高度な研究支援のための大学講座への寄付
従来からの東大、阪大に加え、公募にて募集
- ② 海外の大学に在学する現地学生への奨学金支給
従来からの蘇州、南昌、泰日工業大学以外にも対象拡充
- ③ 日本への外国人留学生に対する奨学金支給
- ④ 国内外の初等・中等・高等教育への助成
- ⑤ 学術・研究助成
研究者・グループに対し研究助成金を提供
- ⑥ スポーツ・文化・芸術支援を通じた青少年の育成

2. 障がい者雇用特例子会社の設立、雇用促進

3. 社員の自発的な社会貢献活動に対する支援策

4. 地域社会への貢献

5. 災害復興支援

08年中国・四川大地震被害、09年インドネシアスマトラ西部パダン
沖地震、ハイチ大地震(10年5月拠出予定)などの義援金

創業110年(2007年)を機に「住友電工グループ社会貢献基本理念」を制定

“Glorious Excellent Company”の実現にむけて社会貢献活動を推進



添付資料



新中期経営計画 “12Vision” ～Glorious Excellent Companyへの飛躍

FY2009 Result & FY2010 Forecast

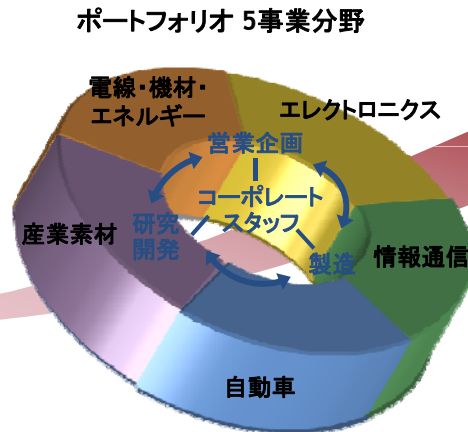
Glorious Excellent Company

“07Vision”
(第一次5カ年計画)

2007年度目標

売上高:	2兆円
営業利益:	1,200億円
ROA:	8.0%

「成長に向けたギア・チェンジ」



成長

“12Vision”
(第二次5カ年計画)

2012年度目標

売上高:	3兆円
営業利益:	2,100億円
ROA:	10.0%

「戦略性の強化」

- 収益性を意識した成長型ポートフォリオの構築
- 資本・財務戦略の徹底による企業体質の強化
- グローバル・グループ経営の最適化

Global Presenceの向上

- 海外拠点(製造、R&D、販売、物流)拡充
- 他社との協業 戦略的展開

成長戦略

Top Technologyの強化

- Q・C・Dで世界の競争を凌駕
(品質)(コスト)(デリバリー)(開発)
- 知財(IP)活用

Global Best 3 作戦

- 製品群の選択と集中
- 売上(または技術力、収益力など)世界ベスト3へ
- ベスト3に入らない製品については、撤退も視野

人材育成(SEIユニバーシティ)

・住友事業精神 ・住友電工グループ経営理念



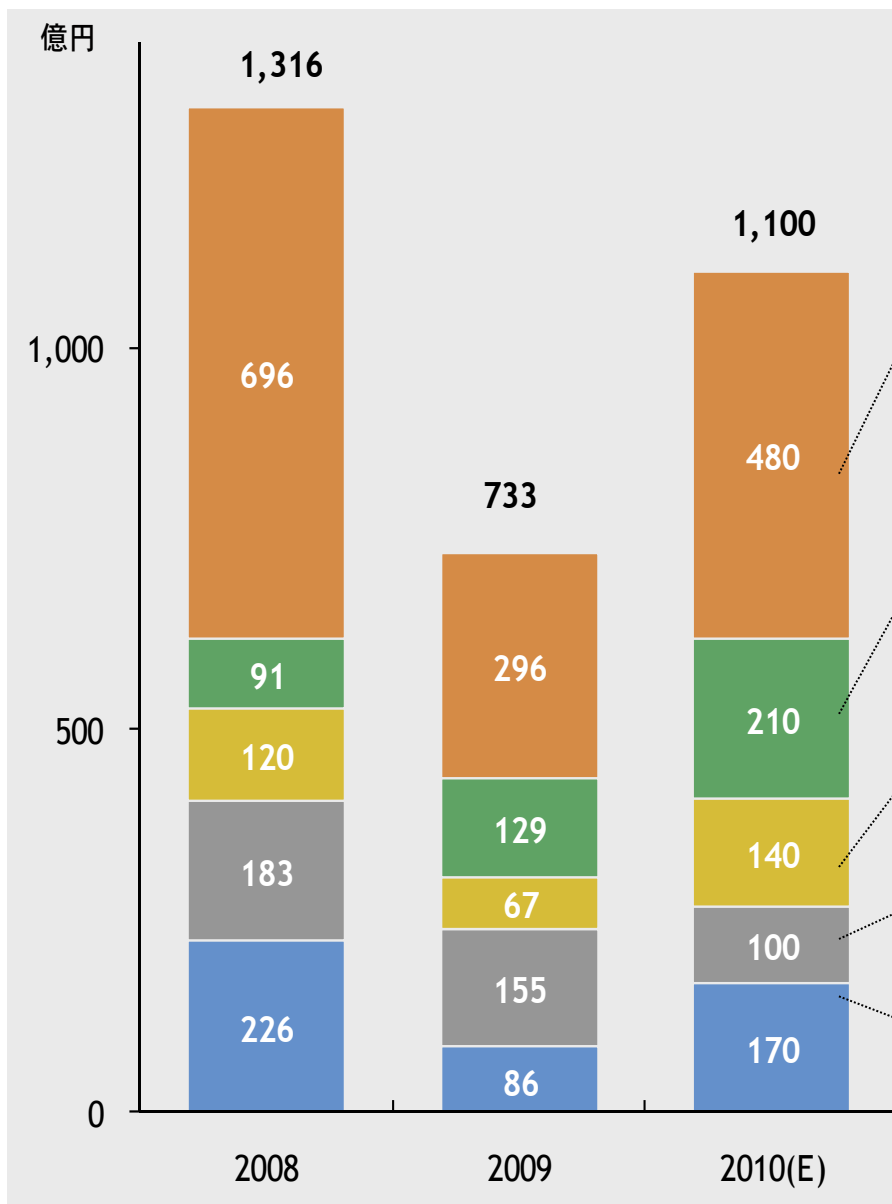
成長分野への重点投入 —設備投資—

FY2009 Result & FY2010 Forecast

設備投資計画

ターゲット分野

重点対策

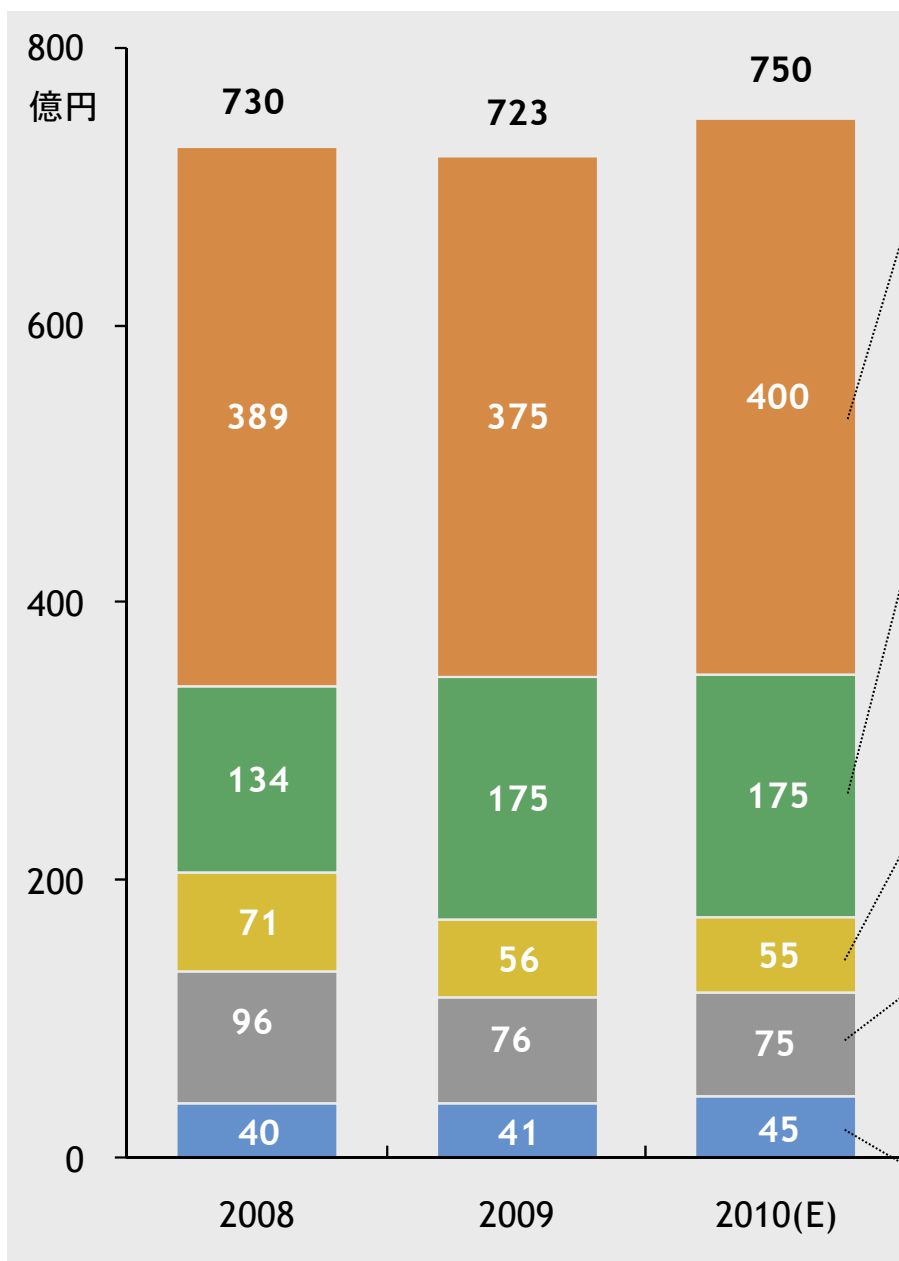


自動車	ハーネス 新規受注車種対応、合理化投資 アセアン・中国海外生産能力増強 東海ゴム 海外生産能力増強・受注対応
情報通信	中国における光通信関連需要増加対応 光・電子デバイス増産 合理化投資
エレクトロニクス	FPC海外生産能力増強 合理化投資
電線・機材・エネルギー	日新電機 中国展開・受注対応 合理化投資
産業素材	特殊金属線の増産(中国・日本) 粉末合金・焼結製品の海外生産能力増強 合理化投資



成長分野への重点投入 — 研究開発 —

FY2009 Result & FY2010 Forecast



ターゲット分野 市場動向

重点対策他

自動車	環境 HEV/EV 軽量化 安全 センサ、カメラ エレクトロニクス化	高電圧ハーネス 細径化(Cu-SUS)ハーネス HEV/EV用リアクトル Electric Control Unit Power Distributor
情報通信	幹線系容量増大 FTTH・無線アクセス拡大、 通信と放送の融合、 NGN対応、グリーンIT	高速光リンク/モジュール、高機能光ファイバ 光情報配線、光パワー応用 光アクセス機器、無線アクセス機器、 IP端末機器、映像配信機器、 省電力化技術、ITS無線機器 ユーティリティデバイス子会社化の影響で増加
エレクトロニクス	機器の小型・高密度化 パワーデバイス需要拡大 軽量化 半導体装置高性能化	高機能FPC※ 高密度実装部品・材料、Li電池 GaN、SiC、AlN マグネシウム合金
電線・機材・エネルギー	省エネ・環境保護	高温超電導線材・ケーブル・コイル
産業素材	高精度機械加工 レアメテリアル対策	高性能超硬工具、軟磁性応用製品 ナノ多結晶ダイヤモンド応用製品 タングステンリサイクル技術



2009年度実績

FY2009 Result & FY2010 Forecast

事業セグメント別売上高と営業利益

億円	2008年度 実績①		2009年度				前年比 ③-①		中間公表比 ③-②	
	売上高	営業利益	中間公表② 売上高	営業利益	実績③ 売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
自動車	9,171	61	7,750	170	8,166	345	△1,005	284	416	175
情報通信	2,750	50	2,850	65	2,712	36	△38	△14	△138	△29
エレクトロニクス	1,829	11	1,650	45	1,651	49	△178	38	1	4
電線・機材・ エネルギー	5,361	89	4,050	45	4,125	79	△1,236	△10	75	34
産業素材他	2,821	24	2,250	5	2,282	9	△539	△15	32	4
消 去	△712	0	△550	0	△572	△1	140	△1	△22	△1
合 計	21,220	235	18,000	330	18,364	517	△2,856	282	364	187

2010年度 年間業績予想

FY2009 Result & FY2010 Forecast

事業セグメント別売上高と営業利益

億円	2009年度 年間実績①		2010年度				年間増減 ②-①			
	売上高	営業利益	上期予想 売上高	上期予想 営業利益	下期予想 売上高	下期予想 営業利益	年間予想② 売上高	年間予想② 営業利益	売上高	営業利益
自動車	8,166	345	4,550	290	4,600	310	9,150	600	984	255
情報通信	2,712	36	1,150	△30	1,050	50	2,200	20	△512	△16
エレクトロニクス	1,651	49	950	50	1,050	70	2,000	120	349	71
電線・機材・ エネルギー	4,125	79	2,100	30	2,450	80	4,550	110	425	31
産業素材他	2,282	9	1,350	60	1,450	90	2,800	150	518	141
消 去	△572	△1	△350	0	△350	0	△700	0	△128	1
合 計	18,364	517	9,750	400	10,250	600	20,000	1,000	1,636	483



将来情報についての注意事項

FY2009 Result & FY2010 Forecast

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・ 米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・ 米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・ 急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・ 財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・ 諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・ 当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。